地域研究センター年報

令和 3(2021) 年度　第 14 号

やわらかな知性を身につける。

宮崎公立大学

MMU LIBERAL ARTS

目　　次

地域研究センター長あいさつ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

令和３(2021)年度地域研究センター学年暦　・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

Ⅰ　生涯教育事業

定期公開講座　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

自主講座　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　16

語学講座　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　46

リカレント教育プログラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　52

開放授業　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　54

公民館講座　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　56

その他講座・講演・講義　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　58

Ⅱ　研究事業

令和３(2021)年度　宮崎市学術研究振興助成事業　・・・・・・・・・・・・・　70

令和３(2021)年度　宮崎公立大学学術研究推進助成事業　・・・・・・・・・　86

Ⅲ　連携協力事業

宮崎市教育委員会との連携協力　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　114

宮崎銀行・宮崎太陽銀行との連携協力　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　116

宮崎日日新聞社との連携協力　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　117

Ⅳ　資　料

宮崎公立大学交流センター・凌雲会館施設利用状況　・・・・・・・・・・・　136

地域貢献部会開催実績　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　137

Ⅴ　付　録

新聞掲載記事一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　142

新聞掲載記事　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　143

地域研究センター長あいさつ

地域研究センター長　竹野　茂

宮崎公立大学地域研究センター年報第 14 号の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。
地域の皆様におかれましては、日頃から宮崎公立大学の地域貢献活動にご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

2021 年度は、新型コロナ感染症拡大による影響を受け大学授業のほとんどを遠隔授業で行わなければならなかった 2020 年度に比べ、大規模授業を除き多くの授業で対面授業も復活しました。一方、地域貢献活動においては対面での開催が難しくオンライン開催が大半を占めました。

しかしながら、コロナ禍下での大学教員のオンライン授業技術の向上がオンラインによる地域貢献活動（特に講座事業）への道を開き、対面では行えない講演・講座が遠隔（オンライン）で開催できる機会を広げてくれた結果、感染の危険を避けながら大学の研究の一端を地域に還元することができました。

そのような状況下で、対面での開催ができないかを模索した結果、多くの講座等の開催は後半 10 月以降に集中して開催されております。2021 年度に取り組んでまいりました様々な地域貢献活動についてご紹介申し上げたいと思います。

まず「定期公開講座」ですが、「これからの暮らしと情報社会」という統一テーマに基づき、メディア・コミュニケーション専攻の 4 名の教員による「定期公開講座」を開催いたしました。①これからの暮らし・地域・情報社会－コロナ禍から見えてきたもの－（梅津顕一郎准教授）、②これからの暮らしを支える情報ツールと変化－「スマホ」から見てみよう－（森部陽一郎教授）、③地域情報化の取り組み－宮崎市での実践活動を通して－（辻利則教授）、④変わる社会と変わらない暮らし－オリンピックと BTS－（森津千尋准教授）の 4 回シリーズの講座が 2021 年 9 月末から 10 月にかけて開催されました。4 回合計でのべ 154 名の参加者がありました。

英語中級・韓国語中級・中国語初級の語学講座もそれぞれ 20 回のコースがオンラインで行われ、それぞれ延べ 217 名、39 名、128 名の参加があり、好評でした。教員が独自の企画で行う「自主講座」では、オンライン講座が多かったですが、一部対面で行ったものもあり、13 件の講座が開設さ

れました。（1）対面で行われたものは、①「教育機関・地域と連携した防災教育［第11回ストリートウォッチング］（辻利則教授）」この企画は11回目を迎え、延べ216名の参加がありました。リモートでの事前授業が1回と現地調査2回で構成されていました。（2）オンラインで行われた講座の内訳は、②宮崎市 地域のお宝事業 成果報告会（永松敦教授）、③「私」の中に社会が映る～高校生のための社会心理学～（川瀬隆千教授）、④英語教科書コーパスから分かること（福田稔教授）、⑤TOEICのスコアを上げる秘訣！（Scott Bingham准教授）、⑥広告業界で日本・グローバル企業の双方から学んだ交渉力－ビジネスパーソンとして世界で通用するコミュニケーション力を磨く－（西村勇特任教授）、⑦大学と地域連携－地域伝承から商品化 地域ブランドへの試み－（永松敦教授）、⑧コミュニケーションとは話すことだけではありません　なぜ異文化感コミュニケーションを学ぶことが極めて重要なのでしょうか。（Scott Bingham准教授）、⑨『元彼の遺言状』を読む（楠田剛士准教授）⑩採用広報だけでない、学生と共に成長するためのインターンシップセミナー（新村拓也第２種非常勤講師）、⑪性表現の倫理学（川瀬和也准教授）、⑫よみがえる江戸時代の宮崎２（大賀郁夫教授）、⑬現代演劇・パーフォーマンス入門（村上幸大郎准教授）でした。

また、宮崎市が主催する「公民館講座」への参画として、楠田剛士准教授、大賀郁夫教授の講座が対面で開催されました。

さらに、今年度から新規開設されましたリカレント教育プログラムとして「ホテル接客英語講座」が宮崎市内のホテル従業員の方を対象に、李世恩第２種非常勤講師により開催されました。従来の開放授業に代わるべく創設されたもので、今後講座内容の拡充を図っていきたいと考えております。

一方、例年好評を得てきました「小学生英語教室」については子供たちを新型コロナウイルスに感染させないという配慮から残念ながら中止せざるをえませんでした。

以上のように、新型コロナウイルス感染の状況を踏まえて、できるだけの感染拡大防止対策を講じた上で、対面でできるか、オンラインに切り替えるべきか、その都度判断しながらやって参りました。また、予定されている講座は中止を視野に入れず何らかの形で全て開催する気概で取り組んでまいりました。地域からの熱い要望と本学教員の地域貢献への火を消してはならないという熱い思いが相まっての取り組みになったと私は信じて疑いません。

新型コロナウイルス感染の完全な収束に依然として目処が立たぬ中ではありますが、宮崎公立大学地域研究センターは、今後も地域社会に貢献する人材の育成や地域の問題解決に資する創造的な研究活動を通して、地域社会との連携・協働を踏まえ、活力ある地域づくりに積極的な役割を果たしていきたいと考えています。宮崎公立大学の地域貢献活動への一層のご理解とご支援をお願いいたします。

宮崎公立大学　2021（令和3）年度　地域研究センター学年暦

2021 Academic Calendar

	4月		5月		6月		7月		8月		9月	
月												
火					1	語学講座英語中級④						
水					2	語学講座韓国語中級④					1	
木	1				3	語学講座中国語初級④	1	語学講座中国語初級⑦			2	
金	2				4		2				3	
土	3		1		5		3				4	
日	4		2		6		4		1		5	
月	5		3	憲法記念日	7		5		2		6	
火	6		4	みどりの日	8	語学講座英語中級⑤	6	語学講座英語中級⑨	3		7	
水	7		5	こどもの日	9	語学講座韓国語中級⑤	7	語学講座韓国語中級⑨	4		8	
木	8		6		10	語学講座中国語初級⑤	8	語学講座中国語初級⑧	5		9	
金	9		7		11		9		6		10	
土	10		8	永松教授　自主講座	12		10		7		11	
日	11		9		13		11		8	山の日	12	
月	12		10		14		12		9	振替休日	13	
火	13	地域貢献部会①	11	語学講座英語中級①	15	語学講座英語中級⑥	13	語学講座英語中級⑩	10		14	
水	14		12	語学講座韓国語中級①	16	語学講座韓国語中級⑥	14	語学講座韓国語中級⑩	11		15	
木	15		13	語学講座中国語初級①	17	語学講座中国語初級⑥	15	語学講座中国語初級⑨	12		16	
金	16		14		18		16		13		17	
土	17		15		19		17		14		18	
日	18		16		20		18		15		19	
月	19		17		21		19		16		20	敬老の日
火	20		18	語学講座英語中級②	22	語学講座英語中級⑦ 地域貢献部会③	20		17		21	
水	21		19	語学講座韓国語中級②	23	語学講座韓国語中級⑦	21		18		22	
木	22		20	語学講座中国語初級②	24		22	海の日	19	福田教授　自主講座	23	秋分の日
金	23		21		25		23	スポーツの日	20		24	梅津准教授 定期公開講座
土	24		22		26		24		21		25	
日	25		23		27		25		22		26	
月	26		24		28		26		23		27	
火	27		25	語学講座英語中級③ 地域貢献部会②	29	語学講座英語中級⑧	27	川瀬(隆)教授自主講座 地域貢献部会④	24		28	地域貢献部会⑤
水	28		26	語学講座韓国語中級③	30	語学講座韓国語中級⑧	28		25		29	
木	29	昭和の日（開講日）	27	語学講座中国語初級③			29	語学講座中国語初級⑩	26		30	
金	30		28				30		27			
土			29				31		28			
日			30						29			
月			31						30			
火									31			

宮崎公立大学　2021（令和3）年度　地域研究センター学年暦

2021 Academic Calendar

	１０月		１１月		１２月		１月		２月		３月	
月												
火									1		1	
水					1	語学講座韓国語中級⑱			2		2	
木					2	辻教授　自主講座③ 語学講座中国語初級⑲			3		3	
金	1	森部教授 定期公開講座			3				4	西村特任教授　自主講座	4	
土	2				4		1	元日	5		5	
日	3				5		2		6	永松教授　自主講座	6	楠田准教授　自主講座
月	4		1		6		3		7		7	
火	5	語学講座英語中級⑪	2	語学講座英語中級⑮	7	語学講座英語中級⑳	4		8	ビンガム准教授　自主講座	8	
水	6	語学講座韓国語中級⑪	3	文化の日	8	語学講座韓国語中級⑲	5		9		9	
木	7	語学講座中国語初級⑪	4	語学講座中国語初級⑮	9	語学講座中国語初級⑳	6		10		10	新村科目コーディネート 担当講師　自主講座
金	8	辻教授 定期公開講座	5		10		7		11	建国記念の日	11	
土	9		6		11		8		12		12	
日	10		7		12		9		13		13	
月	11		8		13		10	成人の日	14		14	
火	12	語学講座英語中級⑫	9	語学講座英語中級⑯	14		11		15		15	
水	13	語学講座韓国語中級⑫	10	語学講座韓国語中級⑮	15	語学講座韓国語中級⑳	12		16		16	
木	14	語学講座中国語初級⑫	11	語学講座中国語初級⑯	16		13		17		17	
金	15	森津准教授 定期公開講座	12		17		14		18		18	
土	16	楠田准教授 公民館講座	13		18		15		19		19	
日	17		14		19		16		20		20	川瀬(和)准教授 自主講座
月	18		15		20		17		21		21	春分の日
火	19	語学講座英語中級⑬	16	語学講座英語中級⑰	21	ビンガム准教授　自主講座 地域貢献部会⑧	18		22	地域貢献部会⑩	22	地域貢献部会⑪
水	20	語学講座韓国語中級⑬	17	辻教授　自主講座① 語学講座韓国語中級⑯	22		19		23	天皇誕生日	23	大賀教授　自主講座
木	21	語学講座中国語初級⑬	18	語学講座中国語初級⑰	23		20		24		24	
金	22	凌雲祭準備（休講）	19	大賀教授　公民館講座	24		21		25		25	村上准教授　自主講座
土	23	凌雲祭	20		25		22		26		26	
日	24	凌雲祭	21		26		23		27		27	
月	25	凌雲祭撤収（休講）	22		27		24		28		28	
火	26	語学講座英語中級⑭ 地域貢献部会⑥	23	勤労感謝の日(開講日) 語学講座英語中級⑱	28		25	地域貢献部会⑨			29	
水	27	語学講座韓国語中級⑭	24	語学講座韓国語中級⑰	29		26				30	
木	28	語学講座中国語初級⑭	25	語学講座中国語初級⑱	30		27				31	
金	29		26		31		28					
土	30		27				29					
日	31		28				30					
月			29				31					
火			30	辻教授　自主講座② 語学講座英語中級⑲ 地域貢献部会⑦								

Ⅰ　生　涯　教　育　事　業

＊公　　開　　講　　座

＊自　　主　　講　　座

＊語　　学　　講　　座

＊リカレント教育プログラム

＊開　　放　　授　　業

＊公　　民　　館　　講　　座

＊その他講座・講演・講義

令和3(2021)年度　定期公開講座

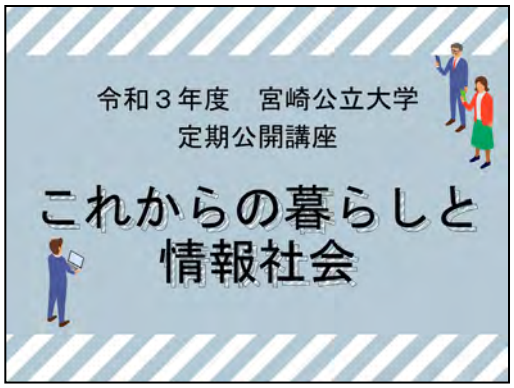
宮崎公立大学　定期公開講座
＊全体テーマ　これからの暮らしと情報社会

講義	日　時	講　座　演　題	講　　師
第1回	9月24日 （金） 18時30分 ～ 20時00分	開講あいさつ	竹野 茂 地域研究センター長
		これからの暮らし・地域・情報社会 ― コロナ禍から見えてきたもの ―	宮崎公立大学 梅津　顕一郎　准教授
第2回	10月1日 （金） 18時30分 ～ 20時00分	これからの暮らしを支える情報ツールと変化 ― 「スマホ」から見てみよう ―	宮崎公立大学 森部　陽一郎　教授
第3回	10月8日 （金） 18時30分 ～ 20時00分	地域情報化の取り組み ― 宮崎市での実践活動を通して ―	宮崎公立大学 辻　利則　教授
第4回	10月15日 （金） 18時30分 ～ 20時00分	変わる社会と変わらない暮らし ― オリンピックとＢＴＳ ―	宮崎公立大学 森津　千尋　准教授
		閉講あいさつ	竹野 茂 地域研究センター長

講座名	宮崎公立大学　定期公開講座	
全体テーマ	これからの暮らしと情報社会	
実施期間・回数	令和３年９月 24 日（金）～令和３年 10 月 15 日（金） 18 時 30 分～20 時 00 分	全　４回
会　　場	宮崎公立大学より WEB 会議システム Zoom を利用して配信	

回	講　　師	タ　イ　ト　ル
1	宮崎公立大学 准教授　梅津　顕一郎	これからの暮らし・地域・情報社会 ― コロナ禍から見えてきたもの ―
2	宮崎公立大学 教授　森部　陽一郎	これからの暮らしを支える情報ツールと変化 ― 「スマホ」から見てみよう ―
3	宮崎公立大学 教授　辻　利則	地域情報化の取り組み ― 宮崎市での実践活動を通して ―
4	宮崎公立大学 准教授　森津　千尋	変わる社会と変わらない暮らし ― オリンピックとＢＴＳ ―

受　講　料	無料
対　象　者	主に高校生以上
募 集 定 員	各回　100 名
延べ受講者数	154 名
配付資料等	各講座資料



宮崎公立大学　定期公開講座　（ 第１回講座 / 全４回 ）

実施日時	令和３年９月24日（金）　18時30分～20時00分
会　　場	宮崎公立大学より WEB 会議システム Zoom を利用して配信
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
当日受講者	33名
配付資料等	各講座資料等

担当講師	演題
宮崎公立大学 准教授　梅津　顕一郎	これからの暮らし・地域・情報社会 ― コロナ禍から見えてきたもの ―

【受講者感想　※アンケートから抜粋】

- 今般のコロナ騒動も前半部分はかなり忘却していた。こうやっていつの間にか時代が進んでいっているのだなと感じたが、そんなことを思っていると自分だけかもしれないが、忘却するスピードが以前より早くなっている気がした。これは社会の情報量に比例している気がする。ただ年をとっただけかもしれないが・・・。次の講座も楽しみにしています。
- 梅津顕一郎先生の講話がとっても分かりやすくて、丁寧なご説明であり、あっという間の１時間半でした。また、コロナ関係以外の社会学のお話も聞く機会があれば、是非参加させて頂きたいと思います。
- 力を込めた熱意あふれた講義でした。
- コロナ禍の２年間を改めて振り返り、コロナは恐ろしさだけでなく、これからの１人１人や、社会全体が発展していく上で必要なことも伝えてくれたように感じました。
  公助のあり方をもう一度考え直し、様々な価値観や情報を吟味しながら、個人として必要な寛容さにつなげ、個々の繋がりを大切にしていこうと思います。
- 梅津先生の講演を通して、改めてコロナ禍の２年について振り返りながら、コロナ禍における社会の課題とどう向き合うのか、考える機会になりました。
  社会的な思想の変化と、それに伴うリスクについて、発信された情報を、多様化の中で、どのように理解していくのか、答えは見つかりませんが、考え続けることが大切なんだろうと感じました。
  初めて参加させて頂きましたが、興味深いお話で、勉強になりました。
  貴重な講演をありがとうございました。

宮崎公立大学　定期公開講座　（ 第 2 回講座 / 全 4 回 ）

実施日時	令和 3 年 10 月 1 日（金）　18 時 30 分～20 時 00 分
会　　場	宮崎公立大学より WEB 会議システム Zoom を利用して配信
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100 名
当日受講者	39 名
配付資料等	各講座資料等

担当講師	演題
宮崎公立大学 教授　森部　陽一郎	これからの暮らしを支える情報ツールと変化 ―「スマホ」から見てみよう ―

【受講者感想　※アンケートから抜粋】

- インターネットの歴史を知ることができて、興味深かったです。
- 素晴らしい講座でした。ポイントをじっくり、しかもコンパクトにお示しいただき、感激でした。
- ＳＮＳの良し悪しを改めて教えて頂きました。これから益々ＡＩが進歩していきます。あらゆる情報から、正しい知識をいかにして取捨選択していくか難しいです。
- 森部先生のボソボソとした語りで始まったので、眠くなるのかなと思ったところでしたが、ネットに関する迷いがなんだったのか整理されてくるようで、眠った後の爽快感すら感じるような講座で、いい意味で裏切られました。森部先生ありがとうございました！
- インターネットの歴史、電話からスマホ登場の流れを知ることができ、良かった。また、ＳＮＳ特有の現象をわかりやすく説明して下さったり、フェイクニュースのことも詳しく教えていただき、とても参考になった。スマホのインターフェースの特徴、今後の可能性についても興味深かった。ありがとうございました。

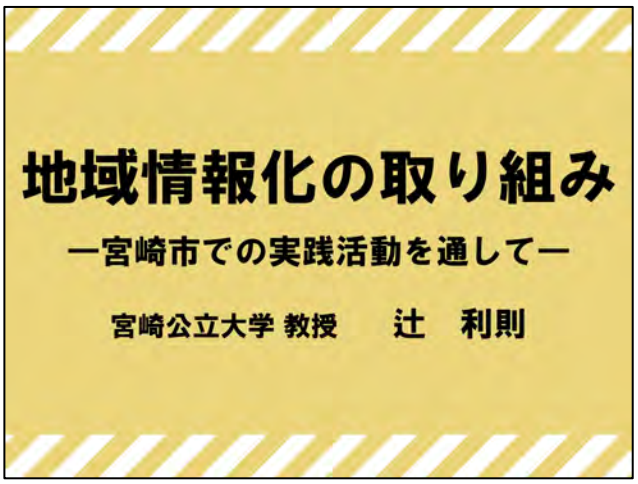
宮崎公立大学　定期公開講座　（ 第３回講座 / 全４回 ）

実施日時	令和３年10月８日（金）　18時30分～20時00分
会　　場	宮崎公立大学より WEB 会議システム Zoom を利用して配信
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
当日受講者	39名
配付資料等	各講座資料等

担当講師	演題
宮崎公立大学 教授　辻　利則	地域情報化の取り組み ― 宮崎市での実践活動を通して ―

【受講者感想　※アンケートから抜粋】

- 情報社会の現状と公立大の取り組みがよく分かりました。大変、今後に役立つ内容でした。
- 分かりやすく良かった。講師の先生の社会での課題に、特に弱い立場の方の課題に向き合われている姿勢に、感銘を受けました。
- 今回の定期公開講座はとても良かった。コロナの為とはいえ、自宅で講座を聞けるのは、とても良い‼ 行く時間の節約、出かける用意が不要。そして教室と同じ様に聞いたり見たり質問ができる。素晴らしい！
- 地域情報化の取組という興味深い演題で話された辻利則教授の講義が、とっても分かりやすかったです。内容は最先端のものにも拘らず、辻教授が直に地域に出向かれて、私たちが容易に理解しやすい表現や画像、言葉で説明いただき感謝申し上げます。特に、ＩＯＴと、高齢者のカードリーダー使用が印象に残りました。ありがとうございました。
- 私は地域活性化のことにも興味を持っていたので、教授が活性化のために見守り隊の一員として、高齢者を対象にスマートフォンを使用したカードリーダー端末で第三者にも素早く情報が届くのはとても便利だし、新しいと思いました。また、家族が遠くに住んでいる一人暮らしの高齢者には家族の心配も抑制されるし、会話のツールのひとつになり、一人暮らしの高齢者特有の孤独感も低減されると感じました。



宮崎公立大学　定期公開講座　（ 第４回講座 / 全４回 ）

実施日時	令和３年10月15日（金）　18時30分～20時00分
会　　場	宮崎公立大学より WEB 会議システム Zoom を利用して配信
受講料	無料
対象者	主に高校生以上
募集定員	100名
当日受講者	43名
配付資料等	各講座資料等

担当講師	演題
宮崎公立大学 准教授　森津　千尋	変わる社会と変わらない暮らし ― オリンピックとＢＴＳ ―

【受講者感想　※アンケートから抜粋】

- ＢＴＳに関する韓国のプラットフォームについてのお話を大変興味深く拝聴させていただきました。韓国国内の市場規模の何倍もの市場に展開できる戦略であり、日本の企業も何らかのモデルとして取り入れるべきだとおもいました。
- オリンピックについて、最近は商業主義になっているな、と感じていた。今回の講義で、その理由が少し理解できた。先生が言われるように、オリンピックが始まって100年を超えているのだから、変わって当たり前だと思う。そんなこと、考えることもなくアメリカの放送局の都合でオリンピックの開催時期や時間に不快感を感じていた。また、貴重な税金を使って、オリンピックって何のために開くのだろうと疑問に思ってもいた。興味もあまりないので、調べようとさえ考えつかなかったが、今回の講義を受講して、知ることの大切さに気付かされた。ＢＴＳについては新聞記事で見たとは思うが、ほとんど知らず、世界は狭くなっているなと思う。自分の興味以外にアンテナを伸ばすことは大事なことだと感じた。
- とってもＫ－ＰＯＰや韓流ドラマが好きなんだろうな～きっとその話題で盛り上がったら一晩中続くんだろうな～講師の先生は。と思いながら聞いていました。オワコンであるオリンピックと現在伸び盛りのＢＴＳを比較して、トップダウン的なイベントでの盛り上がりではなくコクーン的ではあるけれどもＢＴＳのリードによるボトムアップ的なファンダムの盛り上がりでもオリンピックの理念である世界平和に通じるという講座だったと思いました。私があまり興味を持ってない分野だけに、ただのアイドルとファンの盛り上がりと思っていたのですが、そうではなかったんだと教えていただけて新たな視野を得ましたし、私の子どもらがワーキャー騒いでいるのも世界平和に繋がるのであれば悪くないと思ったところです。質問をした者ですが、私の分かりにくい発言に対し見事にご回答いただいた先生の力量に感服いたしました。

公開講座フライヤー

令和３年度　宮崎公立大学　定期公開講座

日程　令和3年９月24日～10月15日
（全４回・毎週金曜日）

時間　18時30分～20時

会場　宮崎公立大学103大講義室

定員　100名（事前予約制）

担当講師

第1回	梅津 顕一郎	宮崎公立大学 准教授
第2回	森部 陽一郎	宮崎公立大学 教　授
第3回	辻　　利則	宮崎公立大学 教　授
第4回	森津　千尋	宮崎公立大学 准教授

広く地域に開かれた大学として、生涯学習の振興及び文化の向上に貢献することを目的に、公開講座を開講します。

今年度はメディア･コミュニケーション専攻の教員が全４回の講座を実施します。

１回のみの参加も可能です。

この機会に本学の講座を体験してみませんか？

詳細は裏面またはウェブサイトをご覧ください。

宮崎公立大学

詳細はウェブサイトをチェック！

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、オンライン(Zoom)実施となる可能性があります。
予めご了承ください。

※お申し込み受け付け後、特にご連絡はいたしませんので、当日会場にお越しください。
但し、オンライン(Zoom)実施となる場合は、事前に宮崎公立大学地域研究センターよりメールにてご連絡いたします。

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、事前予約制といたします。
ご予約のない方の当日受け付けはいたしませんので、予めご了承ください。

宮崎公立大学地域研究センター

公開講座フライヤー

令和３年度　宮崎公立大学　定期公開講座

これからの暮らしと情報社会

受講料 無料

事前予約制

各日程のテーマ・講師

第1回	9/24(金)	これからの暮らし・地域・情報社会 ―コロナ禍から見えてきたもの― 宮崎公立大学　准教授　梅津 顕一郎
第2回	10/1(金)	これからの暮らしを支える情報ツールと変化 ―「スマホ」から見てみよう― 宮崎公立大学　教授　森部 陽一郎
第3回	10/8(金)	地域情報化の取り組み ―宮崎市での実践活動を通して― 宮崎公立大学　教授　辻 利則
第4回	10/15(金)	変わる社会と変わらない暮らし ―オリンピックとＢＴＳ― 宮崎公立大学　准教授　森津 千尋

申込方法（講座期間中も受け付けいたします。1回のみの受講も可能です。）

● 郵送・FAX・メールのいずれかの方法で、以下の事項を宮崎公立大学地域研究センター宛、お申し込みください。

①受講希望日　②氏名(ふりがな)　③住所　④連絡がとれる電話番号　⑤メールアドレス

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、オンライン(Zoom)実施となる可能性があります。
予めご了承ください。

※お申し込み受け付け後、特にご連絡はいたしませんので、当日会場にお越しください。
但し、オンライン(Zoom)実施となる場合は、事前に宮崎公立大学地域研究センターよりメールにてご連絡いたします。

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、事前予約制といたします。
ご予約のない方の当日受け付けはいたしませんので、予めご了承ください。

お申込み・問合わせ先

宮崎公立大学地域研究センター

〒880-8520　宮崎市船塚1丁目58　凌雲会館２階

TEL：0985-20-4772　　FAX：0985-20-4773

メール：mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp

受付時間：平日9:00～17:00

宮崎公立大学

詳細はウェブサイトをチェック！

令和3(2021)年度 自主講座

NO.	講座・講師名	講　座　目　的	講　座　内　容	講 座 日 程 等
1	宮崎市　地域のお宝発掘・発展・発信事業成果報告会 教授 永松　敦	4年間実施したお宝事業の成果、HP・VTR・ガイドマップを制作した地場業者（鉱脈社・ミチプロ）とともに、地域住民、および、関連住民らと地域づくりの将来について考える。	オンライン講座。前半2時間はVTR上映とホームページ、ガイドマップを永松が紹介　後半2時間は地域住民、関連住民をパネリストとして、4年間の成果を振り返り、地域住民と関連住民との交流、伝承文化の未来への活用法を、市民とともに考える場とする。	・5月8日(土) ・13:30～17:00 ・全1回 ・100人募集 ・一般市民 ・オンライン開催
2	「私（ワタシ）」の中に社会が映る ～高校生のための社会心理学～ 教授 川瀬　隆千	宮崎県内の高校生に心理学や社会心理学に興味を持ってもらうため	社会心理学の考え方や研究方法を解説しながら、「私」と社会の関係を探り、「私とは何か？」を考える。	・7月27日(火) ・18:30～20:30 ・全1回 ・100人募集 ・県内高校生 ・オンライン開催
3	英語教科書コーパスから分かること 教授 福田　稔	英単語に着目して英語教科書を分析することで、様々な事実が判明します。本講座を通して、「自信を持って学校英語を教える」「自信を持って学校英語を学ぶ」という意識を高めることができればと思います。	令和2年度より小学校では英語が教科化されました。そこで、講座の前半では、小学校の英語教科書をコーパス（電子データ）化して、英単語に着目した分析を行うことで判明したことを紹介します。後半では、紙媒体の英語教科書をコーパスにする方法や、英単語を覚えるときに注意する点を紹介します。	・8月19日(木) ・13:30～15:50 ・全1回 ・30人募集 ・英語に関心のある市民、教員、学生、生徒 ・オンライン開催

4	教育機関・地域と連携した防災教育 （第11回ストリートウオッチング） 教授 辻　利則	将来を担う子供たちへの防災教育として、平時から災害に備えた取り組みについて、高齢者、障がい者など含めて実践活動を行い、地域の役割、自分にもできることを理解してもらい、さらに子供たちを通して若い世代の地域参加を促すことを目的とする。	小学生を対象に、教育機関と連携し、地震や津波、洪水など災害時に必要な心構え、特に普段から考えておくべきことについて講座（35 人程度のクラスで4回程度）を行う。また、実際に地域の危険個所や災害時に重要となる避難場所などを知るために調査（全体1回）を行う。調査は、地域住民、障がい者団体、そして本学の大学生を募り、最後に危険個所、避難場所等を地図上に記入してまとめる。	・授業 11 月 17 日(水) ・調査 11 月 30 日(火) 12 月 2 日(木) ・8:00～13:00 ・200 人募集 ・小学生、地域住民（障がい者)、大学生
5	TOEIC のスコアを上げる秘訣 准教授 スコット ビンガム	TOEIC テストのスコアを上げる効果的方法を受講者に紹介する。	TOEIC は英語を母国語としない者が自身の英語力を測るための最も有効な手段のひとつです。また、多くの企業や組織は採用、又は従業員の昇進を決定する際には TOEIC のスコアを基準にします。従って、TOEICの得点とは多くの日本人にとって”成功への道” 考えられる事が多いでしょう。 過去 10 年余り、宮崎公立大学に於いてこの TOEIC 準備コースを教えてきました。そして、この 10 年間学生達と TOEIC のスコアを伸ばす為の大切な方法を共有してきました。このコースでは、受購者の方々にその最も重要な方法の幾つかをご紹介していきたいと思います。また、このコースは殆ど英語で行われ、日本語は殆ど使用されない為、受講者は基本的な英会話力が必要です。	・12 月 21 日(火) ・19:00～21:00 ・全1回 ・20 人程度募集 ・英語のレベルアップを考えている方 ・オンライン開催

6	広告業界で日本・グローバル企業の双方から学んだ交渉力 特任教授 西村　勇	ビジネスパーソンとして世界で通用するコミュニケーション力を磨く	世界第1位のメディア・エージェンシー、グループエムの日本支社、グループエム・ジャパン株式会社で、新規ビジネス統括を行う荒垣氏が、外資系企業が商品・サービスを日本で導入する際や、逆に日本企業の海外進出において、サービスを世の中に浸透させるまでのプロセスなどを説明する。 日本、海外の双方の文化の違いを踏まえ、円滑にコミュニケーションを進め、時に強く交渉するテクニックなどを紹介する。	・2月4日(金) ・18:30～20:30 ・全1回 ・30人程度募集 ・学生、社会人 ・オンライン開催
7	大学と地域連携―地域伝承から商品化　地域ブランドへの試み― 教授 永松　敦	地域のお宝発掘・発展・発信事業を通して、大宮地区の伝承文化を活用した新たな経済活動について紹介し、今後の地域活動につなげる。	・10:00～12:00 大宮地区フットパス 景清廟～下北方古墳群～皇宮屋 下北方自治公民館にて、景清公と疫病除けの版木刷り体験 （参加費無料） ・13：30～15：30 大宮地区の映像上映、シンポジウム 大宮地区下北方町東西区会長 野中高志 デザイナー　井上喜司 画家　水元博子 hapihapi 濱本悟史 柿の葉すし坂本　坂本重幸	・2 月 6 日(日) ・13:00～15:40 ・全 1 回 ・50 人募集 ・一般市民 ・オンライン開催

8	コミュニケーションとは話すことだけではありません。 なぜ異文化間コミュニケーションを学ぶ事が極めて重要なのでしょうか。 准教授 スコット ビンガム	このコースは異文化間コミュニケーションの基本概念を紹介するのが目的です。	日本中で何千もの人が英語またはその他の言語を学んでいます。 それらの人達はスピーチ、ヒヤリング、ライティング、リーディング、そして文法力をつけようと長時間を費やしています。しかし、文化がどれだけ私たちの間でのコミュニケーションに影響を与えているか、そして、文化の違いが、いかに効果的コミュニケーションに重大な課題を与えるか、 については殆ど学んでいません。 異文化間コミュニケーションのクラスでは、文化が私たちのコミュニケーションにどのように影響しているかを学びます。同じ文化で育った者同士、そしてさらに重要なのは異文化で育った人達とのコミュニケーションです。 このコースでは異文化間コミュニケーションへの基本概念のほか、流暢に、そして効果的に英語を話せるようになる為にいかに異文化間コミュニケーションが重大かを紹介します。	・2 月 8 日(火) ・19:00～21:00 ・全 1 回 ・50 人程度募集 ・興味のある方 ・オンライン開催
9	『元彼の遺言状』を読む 准教授 楠田　剛士	宮崎ゆかりの近現代文学の作品やその特徴について市民向けに解説し、文学への興味関心を高める。	今話題の小説を（ネタバレせずに）読み解きます。	・3 月 6 日(日) ・10:00～12:00 ・全 1 回 ・20 人募集 ・一般市民 ・オンライン開催

10	採用広告だけでない、学生と共に成長するためのインターンシップセミナー 科目コーディネート担当講師 新村　拓哉	これまでインターンシップをあまり活用していない県内企業の人事担当者や中小企業のインターンシップの活用法を伝える。	インターンシップの受け入れ企業担当者やインターンシップ・コーディネートを事業として行う企業（株式会社 ATOMica）担当者と実践的インターンシップのモデルケース等を紹介しつつ、インターンシップのより良い活用方法についてディスカッションを行う。	・3 月 10 日（木） ・16:00～18:00 ・全 1 回 ・10 人程度募集 ・県内企業人事担当者及び中小企業の経営者 ・オンライン開催
11	性表現の倫理学 准教授 川瀬　和也	性表現について、倫理学的な観点からどのような検討がなされているかを、理解を深めてもらう。	ポルノ小説やブルーフィルムなどの性的な表現はどのような理由で規制されてきたのでしょうか。私たちが生きる現代の社会にもあふれている性的な表現は、どの程度、またどのような意味で、有害なのでしょうか。ジェンダー不平等の問題とも絡めながら、性表現の「倫理」について考えてみましょう。	・3 月 20 日（日） ・15:00～17:00 ・全 1 回 ・50 人募集 ・高校生以上 ・オンライン開催
12	よみがえる江戸時代の宮崎 2 教授 大賀　郁夫	江戸時代の宮崎についての理解を深める	江戸時代の宮崎で起こった事件とその解決法を通して、江戸時代の宮崎とそこに生きた人々の価値観について考える。	・3 月 23 日（水） ・10:00～12:00 ・全 1 回 ・20 人程度募集 ・一般市民 ・オンライン開催
13	現代演劇、現代パフォーマンス入門 准教授 村上　幸大郎	今日イギリスで上演されている演劇やパフォーマンスについての理解を深める。	今日イギリスで上演されている演劇やパフォーマンスのさまざまな形態について専門家による解説を交えながら紹介してもらいます。話題の小説を（ネタバレせずに）読み解きます。	・3 月 25 日（金） ・18:00～20:00 ・全 1 回 ・30 人程度募集 ・一般市民、学生 ・オンライン開催

講　座　名	宮崎市　地域のお宝事業　成果報告会	
実施日時等	令和３年５月８日（土）　13 時 30 分～17 時 00 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学より Web 会議システム Zoom を利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学　教授　永松　敦 南九州大学　健康栄養学部　管理栄養学科 教授　竹之山　愼一 宮崎大学　地域資源創成学研究科　講師　鈴木　良幸 和田の金閣寺踊り保存会長　服部　律子　・　養蜂家　服部　学	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	なし	
受　講　料	無料	
配付資料等	無	
募集定員	50 名	
対　　象	一般市民	
受講者数	受講申込者数：　18 名 受 講 者 数 ：　41 名（当日参加者含む）	

【講座の内容】

13 時 30 分～15 時 00 分
大宮地区での活動のＶＴＲ４種を上映「大宮地区の活動」「景清公を歩く」「神武様を歩く」「宮崎城を歩く」を上映して、各々の解説を行った。

15 時 00 分～17 時 00 分
シンポジウム「地域創生と内外住民との関係」
住民の定義について　在地の住民、新住民、商店など外来ながら職場のある住民等をいかにつなげるか、を検討。地域の伝承文化を新住民、関係住民がどのように活用し、共に地域の活動、および経済を活性化させるかの実践例を報告。地元住民２名を交えて意見交換を行った。

【講座風景写真】

景清の石塔

【講師コメント】

宮崎県、宮崎市の関係者、地域創生の関係者、本学学生からの参加が多くみられた。本事業にかかわった外部の研究者と、大宮地区内の２名の住民を交えての話し合いとなり、今後の地域づくりの活動のためには有益であった。ただ、地域協議会の役員は高齢者が多いため、参加したくてもどのように参加できるのかがうまく伝えられなかったのは今後の課題として残る。

自主講座フライヤー

宮崎公立大学　自主講座

オンライン　成果報告会

地域のお宝発掘・発展・発信事業（宮崎市大宮地区）を終えて

第1部　13：30～15：00

上映会

5月8日（土）

大宮地区の活動
神武様を歩く
景清公を歩く
宮崎城を歩く

解説　永松　敦（本学教授）

第2部　15：00～17：00

シンポジウム

地域創生と内外住民との関係

パネリスト
地域住民　養蜂家　服部　学
未定
未定
南九州大学健康栄養学部准教授　竹之山槙一
宮崎大学地域資源創成学部講師　鈴木良幸

※オンライン　スマホ対応可

司会　永松　敦

お申込み・お問い合わせ
080－6406－5493　oomiya_otakara@yahoo.co.jp
主催　宮崎公立大学民俗学研究室

講　座　名	「私（ワタシ）」の中に社会映る～高校生のための社会心理学～	
実施日時等	令和 3 年 7 月 27 日（火）18 時 30 分～20 時 30 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学より Web 会議システム Zoom を利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学　教授　川瀬 隆千	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	なし	
受　講　料	無料	
配付資料等	なし	
募 集 定 員	申込者全員受講	
対　　象	高校生のみ	
受 講 者 数	受講申込者数：　38 名 受 講 者 数 ：　34 名	

【講座の内容】

本講座は高校生を対象に、個人と社会の関係について解説したものである。

「私」は社会の産物である。「私」は周りの人々や文化の影響を受けて作られる。そして、そのようにして作られた「私」が、今度は周りの人々や社会に影響を及ぼす。このように、「私」と「社会」は密接につながっている。

本講座では、社会心理学の考え方や研究方法の解説も交えながら、「私」と「社会」の関係について、特に、同調、自己呈示、文化的自己観、少数派影響の 4 つの観点から検討した。

進路情報なども提供しながら、社会の一員として責任を果たしながら、社会をより良い方向に変えていくことについて考えを深めた。

【講座風景写真】

【講師コメント】

リクエストがあったので、2 月に実施したものと同じ内容で再び実施した。今回は予想以上に 3 年生の参加が多かった。

心理学に興味を持っている生徒も多かったようで、参加者はたいへん熱心に講義を聞いてくれた。「自分の経験からも考える事ができて分かりやすかった」「共感できる部分が多々ありとてもためになりました」「心理学を少しでも知ることができて、とても楽しかったし良い経験になった」「視覚的な理解もすることが出来て、分かりやすかった」「自分がこれからするべきことが明確になった気がしました」などの感想が寄せられた。

自主講座フライヤー

宮崎公立大学オンライン自主講座

MIYAZAKI MUNICIPAL UNIVERSITY
宮崎公立大学

「私（ワタシ）」の中に社会が映る

～高校生のための社会心理学～

令和３年 7月27日（火曜日）

時間：１８時３０分～２０時３０分

＊高校生のみを対象とした講座で受講料は無料です。
（通信料はご負担ください）
＊申込みいただいた方は全員受講できます。

高校生に心理学や社会心理学に興味を持ってもらうための、体験授業的な講座です！

「私」は社会の産物です。「私」は周りの人々や文化の影響を受けて作られるのです。そして、そのようにして作られた「私」が、今度は周りの人々や社会に影響を及ぼします。社会心理学の考え方や研究方法の解説も交えながら、私と社会の関係を探り、「私とは何か？」を考えます。

講師 川瀬 隆千 宮崎公立大学 教授

受講方法

自宅で受講

▼

WEB会議システムZoomを利用
（インターネット環境が必要）

ご注意ください！

Zoomによる参加が可能な方に限ります。Zoomの利用方法等について、本学による説明や技術的なサポートは致しかねます。

申込方法

お申込みはEメールにて受付いたします。
必要事項を本文に入力して申込受付期間中に送信してください。

メールアドレス

mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp
「@miyazaki-mu.ac.jp」の受信許可設定をお願いします。

必要事項

表題に「心理学講座を受講希望」
本文に①氏名、②高校名、③学年、④電話番号を記載

申込受付期間

令和３年6月28日(月)～7月26日(月)

＊お申し込みいただいた方全員にメールにてZoomのミーティングIDおよびパスワードをお送りします。
＊申込み後5日以内に返信がない場合は、受信許可設定を確認してお手数をおかけしますがもう一度送信してください。

宮崎公立大学公式ＳＮＳ

公式YouTube　公式Twitter　公式LINE

お問合せ先　宮崎公立大学地域研究センター（凌雲会館２階）　TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）

講　座　名	英語教科書コーパスから分かること	
実施日時等	令和 3 年 8 月 19 日（木）　13 時 30 分～15 時 50 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学より Web 会議システム Zoom を利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学　教授　福田　稔	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	なし	
受　講　料	無料	
配付資料等	講座中は、Zoom でパワーポイント資料を示した。これを（別紙の）PDF にしたファイルを Moodle に載せて、ダウンロードできるようにした。	
募集定員	30 名	
対　　象	英語に関心のある市民、教員、学生、生徒	
受講者数	受講申込者数：　13 名 受 講 者 数 ：　10 名	

【講座の内容】
令和 2 年度より小学校では英語が教科化されました。これに関連して、小中学校の先生に面談調査を行う中で、教科書の語彙研究の必要性を感じました。そこで、本講座の前半では、(1)学習指導要領（小中学校外国語）が求めている語彙力についての確認、(2)コーパス（電子データ）についての説明、(3)小学校の英語教科書をコーパス化して、英単語に関して判明したことを紹介しました。後半では、特に、(4)紙媒体の英語教科書をコーパスにする一般的な方法、(5)その問題点と課題、(6)今回私が考えた新しいコーパス構築法について説明しました。

【講座風景写真】

【講師コメント】
現在の学習指導要領によると、中学校卒業時に英単語 2,500 を学ぶ必要があります。これは英和辞典の高校基礎レベルの語彙数です。このような現実を知り、ただ傍観するのでなく、何とかしなくてはという思いに駆られました。私にできることは文法や語彙学習での支援ですが、まず「小学校で何を学ぶのか」を知るために、教科書コーパスを自分で作ってみようと考えました。私自身は、パソコン音痴ですが、それでも「ここまでできる」ということを受講生に分かって頂ければ幸いです。参加者数は少なかったのですが、貴重な質問や意見を頂きまして、大変有意義な講座となりました。準備の段階で、本学の曽我文敏先生に小中学校の先生を紹介して頂きました。また、面談などで宮崎市内の小中学校の先生から貴重な情報を教えて頂きました。感謝申し上げます。

自主講座フライヤー

宮崎公立大学オンライン自主講座

MIYAZAKI MUNICIPAL UNIVERSITY
宮崎公立大学

英語教科書コーパスから分かること

令和2年度より小学校では英語が教科化されました。そこで、講座の前半では、小学校の英語教科書をコーパス（電子データ）化して、英単語に着目した分析結果を紹介します。
後半では、紙媒体の英語教科書をコーパスにする方法や、英単語を覚えるときに注意する点を紹介します。

講師　福田　稔（宮崎公立大学　教授）

日時　8月19日(木) 13:30～16:00
オンライン開催
（WEB会議システムZoom使用）

対象者　英語や英語教育に関心のある方

定員　30名程度（応募多数の場合抽選）

受講料無料

WEB会議システム
Zoomを使用します

ご注意

講座を視聴するための通信料(インターネット料金)は、受講生の負担となります。

ご注意

Zoomによる参加が可能な方に限ります。Zoomの使用方法等について、本学による説明や技術的なサポートは致しかねます。

宮崎公立大学公式SNS

公式YouTube

公式Twitter

申込方法

お申込みはEメールにて受付いたします。必要事項を本文に入力して申込受付期間中に送信してください。

メールアドレス
mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp
『@miyazaki-mu.ac.jp』の受信許可設定をお願いします。

必要事項
表題に「英語講座を受講希望」と記載
本文に①氏名、②学校名・所属先など、③連絡のつく電話番号
ご提供いただいた個人情報は本講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。

申込受付期間
令和3年7月6日(火)～8月5日(木)必着
＊受講者の決定はメールにて8月16日頃にお知らせします。
＊申込み後5日以内に受付返信がない場合は、受信許可設定を確認してお手数をおかけしますがもう一度送信してください。

お問合せ先　宮崎公立大学 地域研究センター（凌雲会館２階）　TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）

講　座　名	教育機関・地域と連携した防災教育（第 11 回ストリートウオッチング）	
実施期間 回　　数	事前授業：3 年 11 月 17 日（水） 地域調査：3 年 11 月 30 日（火）、3 年 12 月 2 日（木） 時　　間：8 時 00 分～13 時 00 分	全　3　回
会　　場	事前授業：宮崎公立大学→西池小（リモート授業） 地域調査：中央西自治区内	
講　　師	宮崎公立大学　教授　辻　利則	
共　催　者	西池小学校、中央西まちづくり推進委員会	
後　　援	なし	
その他スタッフ	なし	
受　講　料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	200 名	
対　　象	西池小学校関係者他	
受講者数	小学校参加者数：　165 名（小学生＋教員） 地域の参加者数：　30 名　　学生：　21 名	

【講座の内容】
本活動は、今年で 11 回目になる。将来を担う子供たちへの防災教育として、平時から災害に備えた取り組みを、高齢者、障がい者など含めて実践活動を行い、地域の役割、自分にもできることを理解してもらい、さらに子供たちを通して若い世代の地域参加を促すことを目的としている。
活動は、事前授業において、地震や津波、洪水など災害時に必要な心構え、特に普段から考えておくべきことについて学び、その後、実際に地域を調査するものである。
地域の危険箇所や災害時に重要となる避難場所などを知るために、地域住民の方と一緒に調査し、過去の災害など様々なことを話してもらう。本学の大学生はサポート役として参加する。本年度はコロナ対策として 4 クラスを 2 クラスずつ 2 日に分けて実施した。昨年度と同様に屋内での活動は全て行わず、代わりにタブレットを使って調査箇所を地図上に表示できる Web アプリを作成し、利用してもらった。

【講座風景写真】

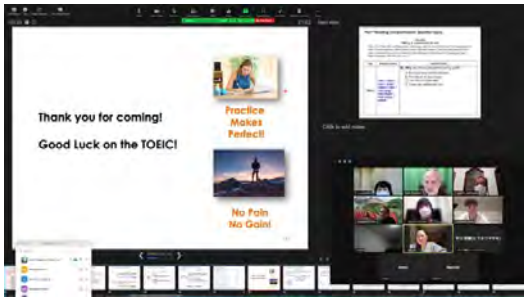
【講師コメント】
昨年度と同様、本年度もコロナ禍の中での開催となり、実施するかどうか検討していたが、小学 5 年生にとってストリートウォッチングは楽しみにしている大きなイベントであるため、万全な対策をして実施することとした。コロナ対策として、3 密になる屋内での活動は全て取りやめ、マスク着用を徹底し、地域の施設訪問でも各施設に対策をお願いした。調査においては、小学校の iPad40 台を活用し、小学生自身が調査データを入力できる Web アプリを用いてデータを入力してもらった。Web アプリは昨年のデータ入力に時間がかかるという反省から文字入力の部分を無くし、代わり音声入力できるようにして調査時間を短縮した。また、子供たちの見守りカード KOTON を施設訪問時に利用し、保護者へ活動を伝えた。本活動は、次年度も引き続き、実施したいと考えている。

講　座　名	TOEIC のスコアを上げる秘訣！	
実施日時等	令和 3 年 12 月 21 日（火）　19 時 00 分～21 時 00 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学より Web 会議システム Zoom を利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学　准教授　Scott　Bingham	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	なし	
受　講　料	無料	
配付資料等	All material downloadable at MMU Link website.	
募集定員	20 名程度	
対　　象	TOEIC のスコアアップを目指したい方。英語力のレベルアップを目指したい方。	
受講者数	受講申込者数：　13 名 受 講 者 数 ：　11 名	

【講座の内容】

During this course, students were given an introduction to the TOEIC exam and taught important strategies to use while taking the exam. Strategies for both the TOEIC Listening and TOEIC Reading exam were included. In addition, the “TOEIC Service List” and the “New General Service List” of the most common English vocabulary used on the TOEIC were provided in order to improve students awareness of vocabulary most often occurring on the TOEIC exams.

【講座風景写真】



【講師コメント】

This was a Zoom class, so reaction from and interactions with the students was very limited. I was able to cover all the points I had planned and the students “seemed” to be engaged with the lesson. Although Question and Answer time was given at the end of the lesson, only one question was asked and answered.

自主講座フライヤー

宮崎公立大学オンライン自主講座

TOEICのスコアを上げる秘訣！

TOEICは、英語を母国語としない者が自身の英語力を測るための最も有効な手段のひとつです。
また、多くの企業や組織は雇用や従業員の昇進を決定する際などにTOEICのスコアを基準する場合があります。
従って、TOEICの得点は多くの日本人にとって『成功への道』と考えられることが多いでしょう。
私は過去10年余り、本学においてTOEIC準備コースを教えてきました。そしてこの10年間学生達とTOEICのスコアを伸ばすための大切な方法を共有してきました。
この講座では、受講者の方々にその最も重要な方法の幾つかをご紹介していきたいと思います。

講師　Scott　Bingham
（宮崎公立大学 准教授）

日時	2021年12月21日(火) 19:00～21:00 オンライン開催(WEB会議システムZoom使用)	受講料	無料
対象者	TOEICのスコア500点以上を目指したい方 英語力のレベルアップを目指したい方	定員	20名程度

申込方法

お申込みはEメールにて受付いたします。必要事項を本文に入力して申込受付期間中に送信してください。

メールアドレス　mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp　『@miyazaki-mu.ac.jp』の受信許可設定をお願いします。

必要事項　表題に[TOEIC講座を受講希望]と記載。本文に①氏名、②学校名・所属先など、③連絡のつく電話番号
ご提供いただいた個人情報は本講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。

申込受付期間　2021年11月10日(水)～12月9日(木)必着
＊受講者の決定はメールにて12月15日頃にお知らせします。
＊申込み後5日以内に受付返信がない場合は、受信許可設定を確認してお手数をおかけしますがもう一度送信してください。

ご注意

WEB会議システムZoomを使用します。

Zoomによる参加が可能な方に限ります。Zoomの使用方法等について、本学による説明や技術的なサポートは致しかねます。講座を視聴するための通信料(インターネット料金)は、受講生の負担となります。

宮崎公立大学公式SNS　公式YouTube　公式Twitter

お問合せ先　宮崎公立大学 地域研究センター（凌雲会館２階）　TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）

講 座 名	広告業界で日本・グローバル企業の双方から学んだ交渉力 －ビジネスパーソンとして世界で通用するコミュニケーション力を磨く－	
実施日時等	令和４年２月４日（金）18 時 30 分～20 時 30 分	全　１　回
会　　場	宮崎公立大学より Web 会議システム Zoom を利用して配信	
講　　師	グループエム・ジャパン株式会社 Head of Business Development（事業開発担当取締役）　荒垣　直之 講座企画：宮崎公立大学　特任教授　西村　勇	
共 催 者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	なし	
受講者負担	受講料　無料	
配付資料等	なし	
募集定員	30 名程度	
対　　象	学生（高校生以下を除く）・社会人	
受講者数	受講申込者数：　３名 受 講 者 数：　３名	

【講座の内容】

「内弁慶で情報発信が得意ではない」と言われている宮崎。
情報を広げる仕組みの理解を目的に、広告の概要→メディアプラニング→最近のトレンド→デジタルメディアの変遷→メディアミックス→広告予算の決め方→メディアプランの評価等、について紹介した。

表現方法としての「プレゼンテーション」は、自分達の製品やサービスを顧客に売り込む「一番大切なミーティング」として、実例を参考にしながら理解を深めた。

最後に、ひとつのものを作り上げる国際プロジェクトにおいて必要なコミュニケーションについて、世界各地にいるメンバーと実践している、相手への敬意・パートナーとして基本としているポイントの紹介等を行った。

【講師コメント】

宮崎市にコロナ感染症による「まん延防止等重点措置」が１月に発令され、対面予定の講座を急遽、Zoom による遠隔に切り替え参加は少人数であった。

広告についての知見があまりない学生の参加もあった。アンケートから、普段接することができない広告の裏側をのぞくことで、興味や理解が深まったと考える。広告業界への就職希望者もいて、講座終了後には具体的な質問が多く寄せられた。この講座が広告業界で働くことのきっかけになれば嬉しく思います。

自主講座フライヤー

宮崎公立大学　自主講座

広告業界で日本・グローバル企業の双方から学んだ交渉力

ービジネスパーソンとして世界で通用するコミュニケーション力を磨くー

普段、広告というアウトプットはよく目にしていますが、今回の講座ではその裏側にどのような職種がありどのような仕組みや考え方でその広告が自分の目に触れているのか？などについて理解し、ますますボーダーレスになっていく世の中で、ビジネス上で海外の人達と、いかに通じ合い誤解なくコミュニケーションをとっていくか、というコツの実例を踏まえながら検討していきます。

講師　グループエム・ジャパン株式会社　Head of Business Development　荒垣直之氏

日 時	2022年2月4日(金) 18:30～20:30
場 所	宮崎公立大学 交流センター 多目的ホール　ご来場の際はマスク着用でお願いします
対象者	学生(高校生以下を除く)・社会人
定 員	30人程度
受講料	無料

申込み　お申込みはEメールにて受付いたします。
必要事項を本文に入力して申込受付期間中に送信してください。

メールアドレス　koza@miyazaki-mu.ac.jp　『@miyazaki-mu.ac.jp』の受信許可設定をお願いします。

必要事項　表題に[2/4自主講座受講希望]　と記載してください。
本文に①氏名　②学校名(学生の場合は、学生と記載)・所属先など　③連絡がとれる電話番号を記載してください。
ご提供いただいた個人情報は本講座の運営及び統計分析に使用しこれらの目的以外に使用することはありません。

申込受付期間　2022年1月5日(水)～1月26日(水)必着
＊受講者の決定はメールにて1月31日(月)頃にお知らせします。
＊申込み後5日以内に受付返信がない場合は、受信許可設定を確認してお手数をおかけしますがもう一度送信してください。

ご注意　新型コロナウイルス感染拡大の状況によってはオンライン(Zoom)実施となる可能性があります。
オンライン(Zoom)実施となる場合事前に宮崎公立大学地域研究センターよりご連絡いたします。

宮崎公立大学公式SNS　公式YouTube　公式Twitter

問合せ先：宮崎公立大学 地域研究センター（凌雲会館２階）　TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）

講　座　名	大学と地域連携―地域伝承から商品化　地域ブランドへの試み―	
実施日時等	令和４年２月６日（日）　13 時 00 分～15 時 40 分	全　１　回
会　　場	宮崎公立大学より Web 会議システム Zoom を利用して配信	
講　　師	ヒーリオセントリック代表　井上　喜司 画家　水元　博子 NPO 法人宮崎文化本舗　井上　優 講座企画：宮崎公立大学　教授　永松　敦	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	那須　由佳（本学　学生） 民俗学ゼミ３年生	
受　講　料	無料	
配付資料等	パワーポイント資料	
募集定員	50 名	
対　　象	一般市民	
受講者数	受講申込者数：　45 名 受 講 者 数 ：　45 名	

【講座の内容】
1 部　13 時 00 分～14 時 00 分
宮崎市　地域のお宝発掘・発展・発信事業（大宮地区）の成果報告　ＶＴＲ４本上映
2 部　14 時 10 分～15 時 40 分
地域アイデンティティー構築のために、地区内に伝わる景清伝説・宮崎城ものがたりの紙芝居制作に尽力された画家、水元博子氏。水元氏の絵をデザイン化して、大宮地区内の商品のブランド化を図るデザイナー井上喜司氏５種類のデザインを披露され、商品によって使い分けることを想定され、機能性を重視した作品を公開した。全国各地の地域づくりに関わる井上優氏は、VTR の内容を評価したほか、考古学・歴史学・民俗学など多岐にわたる視点からの地域創生を評価する見解を示された。
　２年生の那須由佳さんは基幹演習の授業において、在来野菜の鶴首かぼちゃを利用したチーズ饅頭をつくったので、この場で紹介した。

【講座風景写真】

【講師コメント】
　地域アイデンティティーの創出のために、多文化を活かすことが重要であることが確認された。現在、「景清公」「宮崎城ものがたり」の子ども向けの紙芝居を制作し、大宮小・池内小で活用していただいているが、この次に「神武様ものがたり」を制作しようという希望が多く出された。ただし、学校教育の現場では皇国史観に基づく神話教育は現在でも困難という意見が参加者から出され、一瞬驚いたが、地域に根差した伝承と、グローバルに見た比較神話学の視点において、制作すれば問題はないであろうという話でまとまった。予定していた地域住民の濵本悟史氏が急遽欠席されたので、地域創生に明るい NPO 宮崎文化本舗　副理事長　井上優氏にコメンテーターとして加わっていただいた。オンラインのお蔭で参加者全員が発言した画期的な会となった。

講　座　名	コミュニケーションとは話すことだけではありません なぜ異文化間コミュニケーションを学ぶ事が極めて重要なのでしょうか。	
実施日時等	令和４年２月８日（火）　19 時 00 分～21 時 00 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学より Web 会議システム Zoom を利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学　准教授　Scott　Bingham	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	なし	
受　講　料	無料	
配付資料等	All material downloadable at MMU Link website.	
募集定員	50 名程度	
対　　象	一般市民	
受講者数	受講申込者数：　20 名 受　講　者　数　：　17 名	

【講座の内容】

Intercultural Communication is the study of how culture affects how we communicate with those around us - both with those who share our same culture and, more importantly, with those who come from different cultural backgrounds. In this course, I introduced the basic concepts of Intercultural Communication and why Intercultural Communication is crucial to becoming fluent and effective English speakers.

【講座風景写真】

【講師コメント】

This was a Zoom class, so reaction from and interactions with the students was very limited. I was able to cover all the points I had planned and the students “seemed” to be engaged with the lesson. Although Question and Answer time was given at the end of the lesson, only one question was asked and answered. Using Zoom severely limited my ability to interact with the students and demonstrate many of the concepts in the lecture. In the future, lectures should be conducted face-to-face, if possible.

自主講座フライヤー

宮崎公立大学
オンライン自主講座

令和4年2月8日(火)　時間：19時00分～21時00分
WEB会議システムZoomを利用して実施します。

異文化間コミュニケーション

コミュニケーションとは話すことだけではありません。なぜ異文化間コミュニケーションを学ぶことが極めて重要なのでしょうか考えてみましょう。

日本中で何千もの人が英語またはその他の言語を学んでいます。
それらの人達はスピーチ、ヒアリング、ライティング、リーディング、そして文法力をつけようと長時間を費やしています。しかし、文化がどれだけ私たちの間でのコミュニケーションに影響を与えているか、そして、文化の違いがいかに効果的コミュニケーションに重大な課題を与えるか、については殆ど学んでいません。
この講座では、文化が私たちのコミュニケーションにどのように影響しているかを学び、異文化間コミュニケーションへの基本概念のほか、流暢に、そして効果的に英語を話せるようになるためにいかに異文化間コミュニケーションが大切かを紹介します。

講師
Scott　Bingham
（宮崎公立大学　准教授）

受講方法

自宅で受講
▼
WEB会議システム
Zoomを利用
（インターネット環境が必要）

ご注意ください！
Zoomによる参加が可能な方に限ります。Zoomの利用方法等について、本学による説明や技術的なサポートは致しかねます。

定　員

50名
程度

受講料

無料
通信料は各自ご負担願います。

申込方法

お申込みはEメールにて受付いたします。必要事項を本文に入力して申込受付期間中に送信してください。

メールアドレス
koza@miyazaki-mu.ac.jp

必要事項
表題に「異文化講座希望」と記載
①氏名、②学校名・所属先など
③連絡のつく電話番号

申込受付期間
令和４年１月5日(水)～１月27日(木)
※受講者の決定はメールにて2月3日頃にお知らせいたします。

お問合せ先　宮崎公立大学 地域研究センター(凌雲会館２階)　TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）

講　座　名	『元彼の遺言状』を読む	
実施日時等	令和４年３月６日（日）　10 時 00 分～12 時 00 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学より Web 会議システム Zoom を利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学　准教授　楠田　剛士	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	なし	
受　講　料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	20 名	
対　　象	一般市民	
受講者数	受講申込者数：　８名 受 講 者 数 ：　８名	

【講座の内容】

宮崎にゆかりのある、ベストセラー作品を取り上げ、受講者が小説の多角的な読み方に学ぶことを目的に講座を行った。まず『元彼の遺言状』のあらすじと、作者・新川帆立の略歴について紹介した。次に、本作が「このミステリーがすごい！」大賞の大賞を受賞したこと、単行本化から文庫化までの期間が短いことから出版社の期待の大きさが分かることなどを説明した。そして、公開されている応募時の本文と単行本の本文を比較し、題名・主人公名の書き換えの特徴や意味について解説した。小休憩を挟み、後半では、小説冒頭の舞台となるホテルや職場に注目し、なぜこの場所が選ばれているのか、漫画でどのように表現されているのかなどを解説し、殺人やトリックなどのミステリーだけではないミステリー小説の楽しみ方を提示した。

【講座風景写真】

【講師コメント】

もともと対面での講座を予定していたが、新型コロナウィルス感染防止対策のために Zoom によるライブ講座で行った。受講者に質問を投げかけ、Zoom のチャット欄で自由回答してもらい、それにコメントしながら講座を進めたり、長時間 PC・タブレット画面を見続けることがないよう途中で小休憩を取ったりするなどの工夫を行った。

受講者にはチャット投稿は強制ではないこと、ビデオのオン・オフも自由であることを伝えたが、チャット欄には多くのコメントがあり、講師自身も新鮮な気持ちで講座を行うことができた。

自主講座フライヤー

宮崎公立大学自主講座

『元彼の遺言状』を読む

いま話題の小説を(ネタバレせずに)読み解きます

講　　師：楠田 剛士（宮崎公立大学准教授、日本近現代文学）

日　　時： 2022 年 3 月 6 日(日) 10 時～12 時 (9 時半開場)

会　　場： 宮崎公立大学 交流センター・多目的ホール

会場入場時の検温及び講座受講時のマスク着用等のコロナウイルス感染症拡大防止対策にご協力ください。

対象・定員： 一般市民・20 名 (受講無料)

申込方法： お申込みは E メールにて受付いたします。必要事項を本文に入力して申込期限までに送信してください。

必要事項： 表題に『元彼の遺言状希望』と記載 ❶氏名(ふりがな)
❷学校名(学生の場合学生と記載)・所属先など❸連絡がとれる電話番号

申込期限： 2022 年2月 25 日(金)

無料託児について

交流センター内に無料託児所を準備します。託児希望の方は、お子様の氏名と年(月)齢を明記の上、**2月 18 日(金)**までにお申し込みください。

ご注意

新型コロナウイルス感染拡大の状況によってはオンライン(Zoom)実施または中止となる可能性があります。
オンライン(Zoom)実施または中止となる場合事前に宮崎公立大学地域研究センターよりご連絡いたします。

問合せ・申込先　宮崎公立大学地域研究センター　電話:0985-20-4772
メールアドレス:mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp

※お申し込みの際にいただいた個人情報については適切に管理し、目的以外で使用することはございません。

講　座　名	採用広報だけでない、学生と共に成長するための インターンシップセミナー	
実施日時等	令和４年３月 10 日（木）16 時 00 分～18 時 00 分	全　１　回
会　　場	（学外）【　ATOMica（宮崎ナナイロ東館８階）　】	
講　　師	宮崎公立大学　科目コーディネート担当講師　新村　拓也 株式会社　栗山ノーサン　取締役食品事業本部長　池田　吉啓 株式会社　ATOMica Community Product 事業開発責任者　倉橋　朋子	
共　催　者	株式会社 ATOMica	
後　　援	なし	
その他スタッフ	なし	
受　講　料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	10 名程度	
対　　象	県内企業人事担当者及び中小企業の経営者	
受講者数	受講申込者数：　10 名 受 講 者 数 ：　９名	

【講座の内容】
数年前より採用スケジュールの変化によって注目されている「インターンシップ」。これまで多くの企業で実施されてきたのは、１日～数日の「見学型」を主とするものであった。しかしながら近年受け入れ先の企業・団体と学生が同じゴールを目指してともにチャレンジする「実践型」が全国的に注目されてきている。
現在大学及び民間企業が行う実践型プログラムの参加学生を同時に受け入れている株式会社栗山ノーサン取締役食品事業本部長の池田様、そして民間企業として実践型プログラム「ATOMatch」を運営している株式会社 ATOMica コミュニティプロダクト事業開発責任者の倉橋様とともに、こうした実践型インターンシップが生まれてきた背景と実践型インターンシップを受け入れる際にどういったことを行っていて、どういった効果があるのかについて解説した。

【講座風景写真】

【講師コメント】
本学としてもこれまでは比較的短期のインターンシップに参加することを単位認定の要件としてきましたが、教育的効果の高いインターンシップについて議論を進めた結果、次年度から長期実践型インターンシップ科目「インターンシップ論」を開講することになりました。こうした背景も含め、地域内の多様なプレイヤー同士が共に成長を目指す環境をどのようにして作っていけるか、そして大学がそこにどのような役割を果たせるのか、考える良い機会となりました。講座実施にあたりご参加いただきました皆様、講師としてご参加いただいた池田様、倉橋様、共催いただき会場をご提供いただいた株式会社 ATOMica 様、配信をご担当いただいた松田様、そして宮崎公立大学地域研究センターの皆様に感謝申し上げます。

自主講座フライヤー

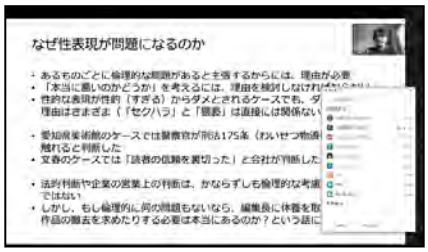
やわらかな知性を身につける。
宮崎公立大学
MMU LIBERAL ARTS
× ATOMica 公開講座
INTERNSHIP SEMINAR
参加無料
採用広報だけでない、学生と共に成長するための
インターンシップセミナー
数年前より採用スケジュールの変化によって注目されている「インターンシップ」。これまで多くの企業で実施されてきたのは、1日～数日の見学を主とするものでした。しかし近年新たなインターンシップが注目されています。現在学生の受け入れを行う企業、コーディネート機関とともにこの新たなインターンシップについて解説します。
THU 16:00~18:00
オンライン同時配信
3.10
お申込みはこちらの QR コードから
TOPICS
採用市場の変化 / 学生の企業選びの軸
最新のインターンシップのトレンド・利活用
会場
ATOMica（宮崎ナナイロ東館 8 階）
※新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインのみでの開催となる場合がございます。
講師
株式会社栗山ノーサン
取締役食品事業本部長
池田 吉啓 氏
株式会社ATOMica
CommunityProduct 事業開発責任者
倉橋 朋子 氏
宮崎公立大学人文学部
科目コーディネート担当講師
新村 拓也
主催：公立大学法人宮崎公立大学
共催：株式会社 ATOMica
問い合わせ先：宮崎公立大学　新村
Mail：shinmura@miyazaki-mu.ac.jp
TEL ：070-5488-6070

講　座　名	性表現の倫理学	
実施日時等	令和４年３月 20 日（日）15 時 00 分～17 時 00 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学より Web 会議システム Zoom を利用して配信	
講　　師	広島工業大学　准教授　八重樫　徹	
共　催　者	宮崎公立大学　准教授　川瀬　和也	
後　　援	なし	
その他スタッフ	なし	
受　講　料	無料	
配付資料等	PDF データにて配布	
募 集 定 員	50 名	
対　　象	高校生以上	
受 講 者 数	受講申込者数：　11 名 受 講 者 数 ：　 7 名	

【講座の内容】

性表現の是非をどう考えるべきかについて、倫理学的な観点からご講演頂いた。マンガや広告等における性的な表現に倫理的に問題があるとされる場合の理由を四つに区分して、それぞれについて妥当性をどう検討すれば良いかが教示された。

【講座風景写真】



【講師コメント】

残念ながらオンラインに変更しての開催となりましたが、意欲的な受講者からのご質問もあり、理解を深めていただけたのではないかと思います。受講くださったみなさんに御礼申し上げます。

自主講座フライヤー

令和３年度　宮崎公立大学自主講座

性表現の倫理学

令和４年３月20日（日）　15：00～17：00

講師

八重樫 徹さん（広島工業大学准教授）

企画・司会　川瀬和也（宮崎公立大学 准教授）

会 場 宮崎公立大学　研究講義棟　２階　201中講義室

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、オンラインでの実施に変更することがあります。

定 員 50名

参加費 無料

申込方法 お申込みはｅメールにて受付いたします。必要事項を記入して、
３月11日（金）までに、下記メールアドレス宛送信してください。

メールアドレス mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp

※『@miyazaki-mu.ac.jp』の受信許可設定もお願いします。

必要記入事項

※表題に「性表現の倫理学を受講希望」と記入し、本文に①氏名 ②学校名・所属先など ③連絡のつく電話番号を記入してください。

※いただいた個人情報は本講座の運営及び統計分析にのみ使用し、これらの目的以外に使用することはありません。

<お問合せ先>

宮崎公立大学地域研究センター　TEL:0985-20-4772（土・日・祝日除く9:00～17:00）

講　座　名	よみがえる江戸時代の宮崎２	
実施日時等	令和４年３月 23 日（水）10 時 00 分～12 時 00 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学より Web 会議システム Zoom を利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学　教授　大賀　郁夫	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	なし	
受　講　料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	20 名程度	
対　　象	一般市民	
受講者数	受講申込者数：　５名 受 講 者 数 ：　５名	

【講座の内容】

江戸時代に生きた庶民の風俗や慣習・考え方・価値観等を理解するには、当時引き起こされた「事件」をめぐって当事者が供述した調書を読み解いていくのが最良の方法である。今回は、文化３年 12 月 28 日に、延岡藩岡富牢舎を牢抜けした三郎兵衛と忠五郎の逃亡ルートと捕縛の経緯を追いながら、当人たちの考え方や牢番たちの言い分ほか、事件に関わった関係者たちの供述書をもとに考察した。当時牢舎は意外にも出入りが容易で、牢舎人と牢番たちが酒宴を行うなど風紀が弛緩していたことがわかった。結局牢抜けした二人と牢番二人が討首となり、荷担した罪の軽重により逼塞・戸〆・遠慮・呵流などがおこなわれた。

【講師コメント】

江戸時代の犯罪史については数多くの研究があるが、日向延岡藩関係の研究はいまだ十分になされているとは言いがたい。今回は延岡藩の牢屋内部の仕組みや捕縛組織などの一端が明らかになり、江戸時代を理解する一助になったと思われる。
今回もオンラインのライブ配信であったが、交通機関を利用しなくても気軽に受講できるので、こうした講座形式も選択のひとつになると思われる。

自主講座フライヤー

宮崎公立大学 自主講座

よみがえる 江戸時代の宮崎 2

昨年度に引き続きシリーズ２回目の開催となりますが、初めての方でもご参加いただけます。

江戸時代の宮崎で起こった事件とその解決法を通して、
江戸時代の宮崎とそこに生きた人々の価値観について考えてみましょう。

新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、オンライン（Zoom）実施又は中止となる可能性があります。
オンライン実施又は中止となる場合は、事前に、宮崎公立大学地域研究センターからご連絡いたします。

令和４年
３月23日（水曜日）

時間：10時～12時
会場：宮崎公立大学交流センター
（多目的ホール）

講師
大賀 郁夫
宮崎公立大学 教授

江戸時代の宮崎について、理解を深めてみませんか？

申込方法

FAX、郵送またはEメールにてお申し込みください。

FAX
0985-20-4773

郵送
〒880-8520
宮崎市船塚１丁目58番地

メールアドレス
mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp

記載事項
①住所(郵送の場合のみ) ②氏名 ③年齢 ④連絡がとれる電話番号 ⑤「江戸時代の宮崎を受講希望」と記載

申込期限
令和４年３月15日(火)
＊受講者の決定は郵送またはメールにて３月18日頃迄にお知らせします。

定員 20名程度
受講料 無料

新型コロナウイルス関連❶

ご提供いただいた個人情報は本講座の運営および統計分析に使用し、これらの目的以外に使用することはありません。ただし、必要に応じ、新型コロナウイルス感染拡大防止のため保健所等公的機関に提出する場合があります（参加者のみ）。

新型コロナウイルス関連❷

当日はマスクの着用をお願いします。
ご協力をお願いします

恐れ入りますが、非着用の方は受講をお断りさせていただきます。

お問合せ先　宮崎公立大学地域研究センター(凌雲会館２階)　TEL：0985-20-4772（土・日、祝日を除く9:00～17:00）

講　座　名	現代演劇・パフォーマンス入門	
実施日時等	令和4年3月25日（金）18時00分～20時00分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学よりWeb会議システムZoomを利用して配信	
講　　師	庄子 萌（Ｐｈ．Ｄ.） 講座企画：宮崎公立大学　准教授　村上 幸大郎	
共　催　者	なし	
後　　援	なし	
その他スタッフ	なし	
受　講　料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	30人程度	
対　　象	一般市民、高校生	
受講者数	受講申込者数：　14名 受 講 者 数 ：　15名	

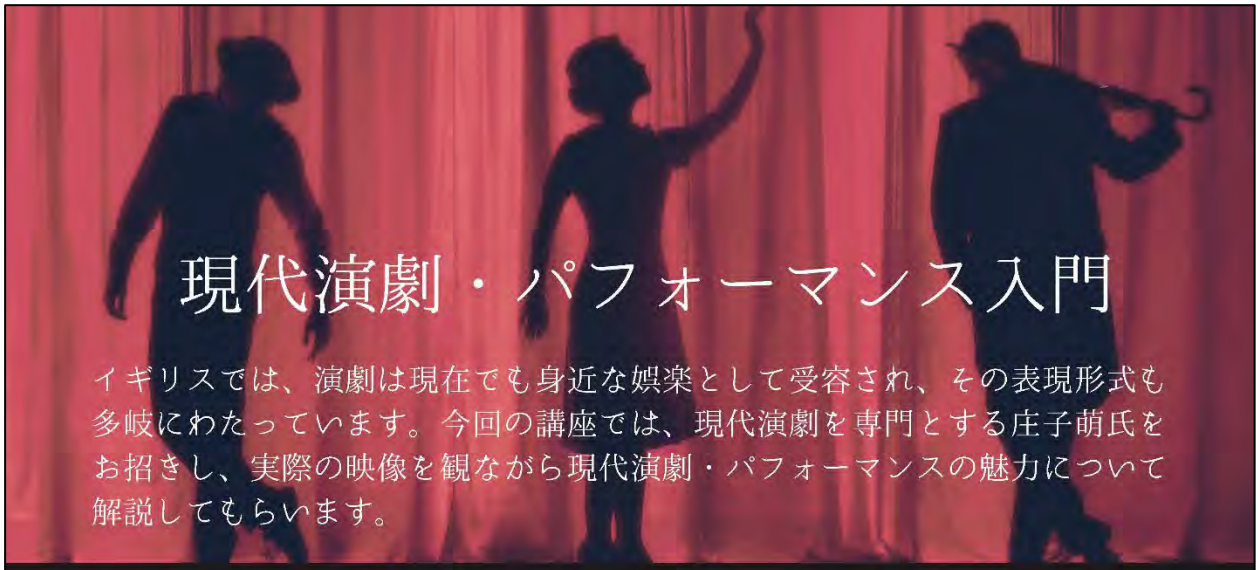
【講座の内容】

まず前半にアンケートを行い、受講者がイギリス演劇に対しどのようなイメージを持っているかの確認を行った。それを踏まえた上で、イギリスにおける演劇の受容や、劇場の形態、地方都市での演劇フェスティバルについての説明が講師よりなされた。次にimmersive theatre、one-to-one performanceなど、日本ではまだ定着していない形態の演劇やパフォーマンスの紹介や、その魅力について解説がなされた。最後に質疑応答が行われ、双方向的なやり取りが行われた。

【講師コメント】

オンラインでの実施のため、受講者の反応を見ながら進めることができなかったが、今まで聞いたこともないような形態の演劇やパフォーマンスを知ることができて、受講者も満足していたようだった。普段私（村上）が授業で扱わない内容ばかりであったので、内部の学生にとっては知識を補完する良い機会になり、刺激を得ることができたようだ。ただ、少し予定の時刻を過ぎてしまったので、高校生や一般の方が質疑応答の前に退出してしまったのは残念であった。参加者が演劇や文学について興味を持ってくれたことは間違いないと思う。

自主講座フライヤー



現代演劇・パフォーマンス入門

イギリスでは、演劇は現在でも身近な娯楽として受容され、その表現形式も多岐にわたっています。今回の講座では、現代演劇を専門とする庄子萌氏をお招きし、実際の映像を観ながら現代演劇・パフォーマンスの魅力について解説してもらいます。

講師　：庄子　萌（PhD）
進行　：村上　幸大郎（宮崎公立大学准教授）

日時　：3月25日（金）18:00～20:00（オンライン開催）
対象者：演劇に興味のある方、英文学やイギリス文化に興味のある方
受講料：無料

申込方法

お申し込みはeメールにて受付いたします。必要事項を本文に入力して申込期限までに送信してください。

メールアドレス
mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp

『@miyazaki-mu.ac.jp』の受信許可設定をお願いします。
表題に「演劇講座を受講希望」と記載し、本文に①氏名、②学校名・所属先など、③連絡のつく電話番号を記入
※いただいた個人情報は本講座の運営および統計分析にのみ使用し、これらの目的以外に使用することはありません。

申込期限

令和４年３月17日（木）必着
※受講者の決定はメールにて３月23日頃までにお知らせします。

WEB会議システムZoomを使用します

※講座を視聴するための通信料（インターネット料金）は、受講者の負担となります。

※Zoomによる参加が可能な方に限ります。Zoomの使用方法について、本学による説明や技術的なサポートは致しかねます。

宮崎公立大学公式SNS
公式YouTube　公式Twitter　公式LINE

お問い合せ先　宮崎公立大学地域研究センター（凌雲会館２階）TEL：0985-20-4772（土・日・祝日除く）9:00～17:00

令和３(2021)年度　語学講座

※各講座ともWEB会議システムZoomを利用

No.	講　座　名	講　　師	講　座　内　容	日　　程
1	英語中級	宮崎公立大学 准教授 Scott Bingham	前後期各10回　全20回開講。 英語の基礎、簡単な会話ができる人を対象に受講者を募集。 募集定員40名。 その時々の話題を講師が提供し、受講生は、その話題についてグループに分かれて英語でディスカッションします。	令和３年 ５月11日～ 12月７日 （8･9月除く） 毎週火曜日 18時30分～ 19時30分
2	韓国語中級	宮崎公立大学 教授 李　善愛	前後期各10回　全20回開講。 韓国語の簡単な読み書きができる方を対象に受講者を募集。 募集定員10名。 文法や表現、韓国文化を学びます。	令和３年 ５月12日～ 12月15日 （8･9月除く） 毎週水曜日 18時00分～ 19時30分
3	中国語初級	宮崎公立大学 日中文化交流促進部(学内課外活動団体)の学生	前後期各10回　全20回開講。 中国語を初めて学ぶ人を対象に受講者を募集。 募集定員20名。 留学経験のある学生や中国からの留学生、中国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話ができるまで段階的に学びます。	令和３年 ５月13日～ 12月９日 （8･9月除く） 毎週木曜日 18時00分～ 19時30分

講　座　名	語学講座　英語中級	
実施期間等	令和3年5月11日～12月7日（8・9月を除く） ＊ 毎週火曜日　18時00分～19時30分	全　20　回
会　　場	宮崎公立大学よりWEB会議システムZoomを利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学　准教授　Scott Bingham	
受　講　料	無料	
募集定員	40名 （高校生以上、英語の基礎、簡単な会話ができる人を対象に受講者を募集）	
受講者数	19名　＊応募者全員受講 受講者延べ数：217名	

【講座の内容】

その時々の話題を講師が提供し、受講生がグループに分かれてその話題について英語でディスカッションを行った。

【受講者感想　※アンケートから抜粋】

- 限られた時間の中で地域の人々と交流し、互いに語学力を高められ、英語でのコミュニケーションがさらに好きになりました！スコットビンガム准教授のアメリカの文化についての話が聞いていてとても楽しかったです。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。
- 私には少しレベルが高く、フリートークではうまく伝えられない部分もありましたが、先生も参加者の皆様も優しく応対してくれたので、とても楽しく参加できました。対話は日常で使える内容でトピックのテーマも興味深く、勉強になりました。

講　座　名	**語学講座　韓国語中級**	
実施期間等	令和3年5月12日～12月15日（8・9月を除く） ＊ 毎週水曜日　18時00分～19時30分	全　20　回
会　　場	宮崎公立大学よりWEB会議システムZoomを利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学　教授　李　善愛	
受　講　料	無料	
募集定員	10名 （高校生を除く、韓国語で簡単な読み書きができる方を対象に受講者を募集）	
受講者数	2名　＊応募者全員受講 受講者延べ数：19名	

【講座の内容】

韓国語の簡単な読み書きができることを前提に文法や表現、韓国文化を学んだ。

【受講者感想　※アンケートから抜粋】

- オンラインでの不安がありましたが、その不安はすぐに解消されて、楽しくまた、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。
  担当講師の先生の準備も大変だったと思いますが、毎回、分かりやすく説明して頂き、またいろんな情報や興味深いお話もあって、あっという間の20回でした。ありがとうございました。
- 語学だけでなく韓国文化のことも教えて頂き、ありがとうございました。
  韓国語中級講座はあまりないので、また行われると嬉しいです。

講　座　名	**語学講座　中国語初級**	
実施期間等	令和3年5月13日～12月9日（8・9月を除く） ＊ 毎週木曜日　18 時 00 分 ～ 19 時 30 分	全　20　回
会　　場	宮崎公立大学よりWEB会議システムZoomを利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学 日中文化交流促進部　（学内課外活動団体）	
受　講　料	無料	
募集定員	20名 （高校生以上、中国語を初めて学ぶ人を対象に受講者を募集）	
受講者数	12名　＊応募者全員受講 受講者延べ数：128名	

【講座の内容】

留学経験のある学生や中国からの留学生、中国語を学ぶ学生たちが講師役となり、発音の基礎から簡単な会話が理解できるまでを学んだ。

【受講者感想　※アンケートから抜粋】

- 講師の先生はしっかり準備され、講義は丁寧にそして、市民に寄り添って指導されていると思いました。先生のネイティブな発音が聞かれてとても参考になりましたし、その後の文化や風習、京劇などの話もとても興味深く聞かせてもらいました。
- 資料や連絡など細やかに対応していただき、ありがとうございます。仕事の都合がつかず、参加できないことが多く、一生懸命されている学生の方々に申し訳なく思っています。また時間にゆとりができたら再チャレンジできたらと考えています。

語学講座フライヤー

宮崎公立大学からのお知らせ

令和3年度

語学講座

★新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、講座の開催形式が、対面からオンラインでの開催となる場合があります。

講座・講師名	講座内容及び募集対象	曜日	講座日程
英語中級 スコット ピンガム (准教授)	講師から出された課題を英語で話し合います。 (基本的な英会話や読み方のできる方) ※ 一般市民(高校生以上) 定員40名 受講料無料	火曜日	5月11日～12月7日 18時00分～19時30分 全20回 (8・9月除く)
韓国語中級 李 善愛 (教授)	韓国語で簡単な読み書きができる方を対象に、文法や表現、文化を学びます。(参加には条件があります。本学ホームページよりご確認ください) ※ 一般市民(高校生は除く) 定員10名 受講料無料	水曜日	5月12日～12月15日 18時00分～19時30分 全20回 (8・9月除く)
中国語初級 日中文化交流促進部 (学生)	中国語の発音基礎から始めて、簡単な日常会話までを学びます。(初心者に限る) ※ 一般市民(高校生以上) 定員20名 受講料無料	木曜日	5月13日～12月9日 18時00分～19時30分 全20回 (8・9月除く)

場所 宮崎公立大学 交流センター多目的ホール

応募要項

①希望講座 ②郵便番号・住所 ③氏名 ④年齢 ⑤連絡がとれる電話番号 ⑥高校生は学校名

ハガキ・FAX又はメールにて下記宛先までお申し込みください。

※韓国語中級のみ、高校生の受講は出来ません。

(応募者が多数の場合は抽選し、受講可否の結果を後日郵送します。)

宛先 お問合せ先

〒880－8520 宮崎市船塚1丁目58番地 宮崎公立大学 地域研究センター

☎ 0985－20－4772 FAX番号 0985－20－4773

メールアドレス mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

応募締切 令和3年4月18日(日)必着

※ハガキ、FAX、メールにご記入いただいた個人情報の取扱いについては、適正に管理し語学講座の運営目的以外には使用いたしません。

※オンライン開催になった場合、WEB会議システムZoomを使用します。Zoomの利用方法等については、本学による説明や技術的なサポートは致しかねます。

また、講座を視聴するための通信料(インターネット料金)は、講座生のご負担となります。

講　座　名	リカレント教育プログラム「ホテル接客英語講座」	
実施期間等	令和 3 年 9 月 29 日～12 月 15 日 ＊ 毎週水曜日　10 時 00 分～11 時 30 分	全 10 回 ＋ 修了認定試験
会　　場	宮崎公立大学　凌雲会館　共同研究室	
講　　師	宮崎公立大学グローバル人材養成プログラム講師（英語） 李　世恩	
受　講　料	30,000 円（教材費等含む）	
対　　象	宮崎市内のホテル勤務者	
募集定員	10 名	
受講者数	6 名	

【講座の目的】

広く地域に開かれた大学として、地域における課題の解決や人材の育成に寄与するため、多様な学習ニーズに対応した多様な形態の学生（受講生）の受入を行い、生涯にわたる学び直しの場として、学習の機会を積極的に提供するため、本講座を開講する。

【受講生からのコメント】

・様々なレベルの方々が一緒に、講座のすすめ方も大変だったと思われますが、李先生が柔軟に対応してくださり、講座内容もよく理解することができました。また、職員の方がいつも教室で笑顔で迎えてくださり、声をかけてくださったり、慣れない雰囲気の中でとてもうれしかったです。誠にありがとうございました。

・10 日間ありがとうございました！！
これを機会に自分でももっと練習して海外の方ともコミュニケーションをとれるようになりたいと思いました！

【講座風景写真】

講座スケジュール

回	日　　時	内　　容
1	9 月 29 日（水） 10:00～11:30	**オリエンテーション** **来客応対の基本**
2	10 月 6 日（水） 10:00～11:30	**異文化理解と基本的な英語表現**
3	10 月 13 日（水） 10:00～11:30	**ホテル接客英会話** ※エントランス・ロビー
4	10 月 20 日（水） 10:00～11:30	**ホテル接客英会話** ※フロント（チェックイン・チェックアウト）
5	10 月 27 日（水） 10:00～11:30	**ホテル接客英会話** ※ルームサービス・ハウスキーピング
6	11 月 10 日（水） 10:00～11:30	**ホテル接客英会話** ※コンシェルジュ①
7	11 月 17 日（水） 10:00～11:30	**ホテル接客英会話** ※コンシェルジュ②
8	11 月 24 日（水） 10:00～11:30	**ホテル接客英会話** ※レストラン・バー
9	12 月 1 日（水） 10:00～11:30	**ホテル接客英会話** ※電話応対
10	12 月 8 日（水） 10:00～11:30	**ホテル接客英会話** ※トラブル、クレーム対応
—	12 月 15 日（水） 10:00～11:30	**修了認定試験** ※合格者に修了認定証を発行

令和３(2021)年度　開放授業

名　　称	担　当　講　師	概　　要	期　　間
前　　期 開放授業		新型コロナウイルス感染 拡大防止のため、中止	
後　　期 開放授業		新型コロナウイルス感染 拡大防止のため、中止	

令和３(2021)年度　　公民館講座

NO.	講　座　名	担当講師	日程・講座会場
1	【図書館司書と読書会】第３回	准教授 楠田　剛士	久峰中校区活動センター 令和３年 10 月 16 日（土）
2	よみがえる江戸時代の宮崎	教授 大賀　郁夫	那珂地区公民館 令和３年 11 月 19 日（金）

令和3(2021)年度　その他講座・講演・講義

講　演　名	担当講師	開　催　趣　旨	日　　程
宮崎公立大学 英語教育 フォーラム2021 これからの時代の英語教育のあり方	宮崎公立大学 教授 野﨑　秀正	グローバル化が急速に進展する現代、英語を使用したコミュニケーションは、これまで以上に様々な場面で必要とされることが想定され、その運用能力の向上が課題となっています。そうした中で学習指導要領が改訂され、英語が教科化された小学校だけではなく中学校・高等学校でも英語教育のあり方を見直す必要に迫られているといえます。こうした社会の変化とそれに伴うわが国の教育政策の動向を受けて、今回で4回目の開催となる宮崎公立大学英語教育フォーラムでは、「これからの時代の英語教育のあり方」をテーマに、県内外で活躍している本学卒業生を含む英語教育の実践者や研究者をお招きし、基調講演や授業実践報告を通して、これからの英語教育のあり方を考えていきたいと思います。昨年同様、新型コロナウィルス感染拡大への対応としてオンライン開催とさせていただきますが、日頃から学校現場で英語教育を実践されている方々、教育行政に携わる方々、英語教育に関わる研究を進めておられる研究者の方々、これから英語教師を目指して大学で学んでいる方々等、本テーマに関心のある皆様方のご参加を心よりお待ちしています。	令和3年 12月11日（土） 13:00～17:20

講　義　名	担当講師	講義内容の紹介	日　　程
最終講義 「食づくり・心づくり・体づくり」	宮崎公立大学 教授 宮元　章次	日本における身体組成の発展に寄与することが私の仕事と思っていました。幸い、多くの友人各位との協力によって、肥満はBody Mass Indexが25kg/㎡以上と設定してあったものが、これに加えて肥満は脂肪組織に脂肪が過剰に蓄積されている状態となりました。これに1㎜ほど貢献したかもしれないと思っています。同時に、人間生活における身体組成に関する科学的基礎として、体脂肪率が一般社会から認められつつあります。最終講義は、食づくり・心づくり・体づくりについて取り上げます。	令和4年 2月4日（金） 15:00～16:30
最終講義 「ヤバイよヤバイよ！日本の平和」 ―戦争学から考える―	宮崎公立大学 教授 田中　宏明	第二次世界大戦以降、国家間戦争はほとんど起こっていません。そうはいっても、国家が戦火を交えてホットスポットとなりうる地域があります。その一つが日本周辺です。すなわち、北朝鮮、尖閣、そして台湾での戦争が日本の戦争につながる可能性があります。では、日本有事となる可能性がどれほどあり、そして戦争を回避し平和を保つには日本はどうすればよいのでしょうか。それらについて戦争学の観点から考えてみましょう。	令和4年 2月10日（金） 15:00～16:30

宮崎公立大学英語教育フォーラム 2021				
講　演　名		これからの時代の英語教育のあり方		
実施日時等		令和 3 年 12 月 11 日（土）13 時 00 分～17 時 20 分		全　1　回
会　　場		宮崎公立大学より WEB 会議システム Zoom を利用して配信		
	時間	内　　容		
1	13 時 00 分 ～13 時 15 分	開会行事		
2	13 時 15 分 ～14 時 45 分	授業実践報告	プレゼンター　：藤原　綾子（宮崎市立田野小学校　教諭） プレゼンター　：伊予波　千春（沖縄市立安慶田中学校　教諭） プレゼンター　：三原　　寛　（島根県立松江北高等学校　教諭） コメンテーター：川上　典子（鹿児島純心女子大学　教授） 司　　会：松本　祐子（宮崎公立大学　教授）	
3	15 時 00 分 ～16 時 30 分	基調講演	テーマ：「新学習指導要領に沿った評価のあり方 ―学習意欲を高める評価へのヒント―」 講　師：川上　典子　（鹿児島純心女子大学　教授）	
4	16 時 40 分 ～17 時 10 分	情報交換・ グループ討議	グループに分かれ(ブレイクアウトルーム使用)、オンライン上で参加者による自由な意見・情報交換を行った。	
5	17 時 10 分 ～17 時 20 分	閉会行事		
受講者負担		受講料：無料		
募 集 対 象		宮崎県内外の教育関係者		
参 加 者 数		67 名		

英語教育フォーラム 2021 フライヤー

宮崎公立大学
英語教育
フォーラム
2021

後援：宮崎県教育委員会・宮崎市教育委員会

これからの時代の英語教育のあり方

開催趣旨

グローバル化が急速に進展する現代、英語を使用したコミュニケーションは、これまで以上に様々な場面で必要とされることが想定され、その運用能力の向上が課題となっています。そうした中で学習指導要領が改訂され、英語が教科化された小学校だけではなく中学校・高等学校でも英語教育のあり方を見直す必要に迫られているといえます。こうした社会の変化とそれに伴うわが国の教育政策の動向を受けて、今回で 4 回目の開催となる宮崎公立大学英語教育フォーラムでは、「これからの時代の英語教育のあり方」をテーマに、県内外で活躍している本学卒業生を含む英語教育の実践者や研究者をお招きし、基調講演や授業実践報告を通して、これからの英語教育のあり方を考えていきたいと思います。昨年同様、新型コロナウィルス感染拡大への対応としてオンライン開催とさせていただきますが、日頃から学校現場で英語教育を実践されている方々、教育行政に携わる方々、英語教育に関わる研究を進めておられる研究者の方々、これから英語教師を目指して大学で学んでいる方々等、本テーマに関心のある皆様方のご参加を心よりお待ちしています。

日時 2021年12月11日（土）13:00～17:20

場所 Zoom（事前申込が必要です）によるオンライン開催

参加費 無料（参加人数に制限はありません）

基調講演
テーマ：「新学習指導要領に沿った評価のあり方－学習意欲を高める評価へのヒントー」
講師：川上 典子（鹿児島純心女子大学 教授）

授業実践報告

プレゼンター	藤原綾子	（宮崎市立田野小学校　教諭）
プレゼンター	伊良波千春	（沖縄市立安慶田中学校　教諭）
プレゼンター	三原　寛	（島根県立松江北高等学校　教諭）
コメンテーター	川上典子	（鹿児島純心女子大学　教授）
司会	松本祐子	（宮崎公立大学　教授）

※ 当日のプログラム、参加申込の方法につきましては裏面をご覧下さい

英語教育フォーラム 2021 フライヤー

プログラム

1	開会行事	13:00～13:15
2	授業実践報告	13:15～14:45
	＜休憩＞	14:45～15:00
3	基調講演	15:00～16:30
	＜休憩＞	16:30～16:40
4	情報交換・グループ討議	16:40～17:10
	グループに分かれ(ブレイクアウトルーム使用)、オンライン上で参加者による自由な意見・情報交換を行います。	
5	閉会行事	17:10～17:20

※フォーラム終了後、本フォーラムの内容に関する簡単なアンケートにご協力下さい。

参加申込方法

以下の QR コードから参加予約フォームにアクセスし、氏名・所属・連絡先(メールアドレス)等必要事項を入力の上、**12月5日(土)まで**に送信して下さい。後日、受付確認メールと参加方法(Zoom のログイン情報等)を登録していただいたメールアドレス宛にお送りします。

お問い合わせ

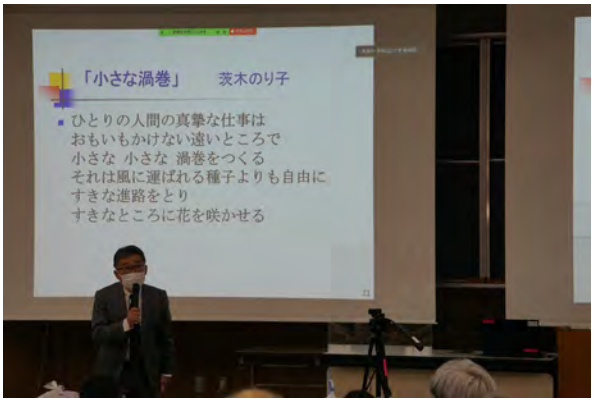
〒880-8520　宮崎市船塚 1 丁目 1-2　宮崎公立大学「英語教育フォーラム開催事務局」
＜代表＞　宮崎公立大学　教授　野崎秀正
TEL: 0985-20-2000　FAX: 0985-20-4820　E-mail: nosaki@miyazaki-mu.ac.jp

最終講義「食づくり・心づくり・体づくり」		
実施日時等	令和４年２月４日（金）　15 時 00 分～16 時 30 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学　103 大講義室 宮崎公立大学より Web 会議システム Zoom を利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学　教授　宮元　章次	
受　講　料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	なし	
対　　象	一般市民・本学卒業生・本学在校生・本学関係者	
受講者数	対　面　参　加　者：　43 名 オンライン参加者：　　5 名	

【講師による講義内容の紹介】

日本における身体組成の発展に寄与することが私の仕事と思っていました。幸い、多くの友人各位との協力によって、肥満は Body Mass Index が 25kg/㎡以上と設定してあったものが、これに加えて肥満は脂肪組織に脂肪が過剰に蓄積されている状態となりました。これに１㎜ほど貢献したかもしれないと思っています。同時に、人間生活における身体組成に関する科学的基礎として、体脂肪率が一般社会から認められつつあります。最終講義は、食づくり・心づくり・体づくりについて取り上げます。

【講義風景写真】



最終講義フライヤー

退職教授　最終講義のお知らせ

宮崎公立大学　**宮元　章次** 教授

（専門：スポーツ・健康科学）

最終講義

「食づくり・心づくり・体づくり」

日本における身体組成の発展に寄与することが私の仕事と思っていました。幸い、多くの友人各位との協力によって、肥満はBody Mass Indexが25kg/m²以上と設定してあったものが、これに加えて肥満は脂肪組織に脂肪が過剰に蓄積されている状態となりました。これに1mmほど貢献したかもしれないと思っています。同時に、人間生活における身体組成に関する科学的基礎として、体脂肪率が一般社会から認められつつあります。最終講義は、食づくり・心づくり・体づくりについて取り上げます。

1993年の開学当初から長きにわたり大きな貢献をされてきた宮元章次教授の最終講義です。どなたでもご参加いただけます。ぜひご参加ください。

2022年

2月4日（金）15：00～16：30

会場：宮崎公立大学　103大講義室

対象：一般

定員：30名

（先着順　事前予約制）

申込方法：メール（mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp宛）にて以下の必須事項を明記の上お申込みください。

件名：宮元先生最終講義参加希望

本文：①申込者氏名　②ふりがな　③連絡のとれる電話番号

注意事項

※ お申し込み受け付け後、特にご連絡はいたしませんので、当日会場にお越しください。

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、事前予約制といたします。
ご予約のない方の当日受け付けはいたしませんので、予めご了承ください。

※ 当日来場する際は、マスク着用、手指消毒、会場の換気等、新型コロナウイルス感染拡大防止対策へのご協力をお願いいたします。

お申込み問い合わせ

宮崎公立大学　地域研究センター

〒880-8520　宮崎市船塚1丁目58　凌雲会館2階　（受付時間：土日祝を除く9:00～17:00）

TEL：0985-20-4772　FAX：0985-20-4773　メール：mmukoza@miyazaki-

最終講義「ヤバイよヤバイよ！日本の平和」―戦争学から考える―		
実施日時等	令和４年２月 10 日（金）　15 時 00 分～16 時 30 分	全　1　回
会　　場	宮崎公立大学　103 大講義室 宮崎公立大学より Web 会議システム Zoom を利用して配信	
講　　師	宮崎公立大学　教授　田中　宏明	
受　講　料	無料	
配付資料等	なし	
募集定員	なし	
対　　象	一般市民・本学卒業生・本学在校生・本学関係者	
受　講　者	対　面　参　加　者：　36 名 オンライン参加者：　3 名	

【講師による講義内容の紹介】

第二次世界大戦以降、国家間戦争はほとんど起こっていません。そうはいっても、国家が戦火を交えてホットスポットとなりうる地域があります。その一つが日本周辺です。すなわち、北朝鮮、尖閣、そして台湾での戦争が日本の戦争につながる可能性があります。では、日本有事となる可能性がどれほどあり、そして戦争を回避し平和を保つには日本はどうすればよいのでしょうか。それらについて戦争学の観点から考えてみましょう。

【講義風景写真】

最終講義フライヤー

退職教授　最終講義のお知らせ

宮崎公立大学　**田中　宏明** 教授

（専門：国際関係論）

最終講義

「ヤバイよヤバイよ！日本の平和 ―戦争学から考える―」

第二次世界大戦以降、国家間戦争はほとんど起こっていません。そうはいっても、国家が戦火を交えてホットスポットとなりうる地域があります。その一つが日本周辺です。すなわち、北朝鮮、尖閣、そして台湾での戦争が日本の戦争につながる可能性があります。では、日本有事となる可能性がどれほどあり、そして戦争を回避し平和を保つには日本はどうすればよいのでしょうか。それらについて戦争学の観点から考えてみましょう。

1993年の開学当初から長きにわたり大きな貢献をされてきた田中宏明教授の最終講義です。どなたでもご参加いただけます。ぜひご参加ください。

2022年

2月10日（木）18：30～20：00

会場：宮崎公立大学　103大講義室

対象：一般

定員：30名

（先着順 事前予約制）

申込方法：メール（mmukoza@miyazaki-mu.ac.jp宛）にて以下の必須事項を明記の上お申込みください。

件名：田中先生最終講義参加希望

本文：①申込者氏名　②ふりがな　③連絡のとれる電話番号

注意事項

※ お申し込み受け付け後、特にご連絡はいたしませんので、当日会場にお越しください。

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、事前予約制といたします。
ご予約のない方の当日受け付けはいたしませんので、予めご了承ください。

※ 当日来場する際は、マスク着用、手指消毒、会場の換気等、新型コロナウイルス感染拡大防止対策へのご協力をお願いいたします。

お申込み問い合わせ

宮崎公立大学　地域研究センター

〒880-8520　宮崎市船塚1丁目58　凌雲会館2階　（受付時間：土日祝を除く9:00～17:00）

TEL：0985-20-4772　FAX：0985-20-4773　メール：mmukoza@miyazaki-

Ⅱ　研　究　事　業

令和 3(2021)年度 宮崎市学術研究振興助成事業

令和３(2021)年度　宮崎市学術研究振興助成事業

No.	職　氏　名	研　　究　　課　　題
1	教授 辻　利則	高齢者を見守る地域関係者の連携を支援するシステムの開発
2	教授 川瀬　隆千	育児に関する相談行動の促進を目指した介入プログラムの開発 ～育児における父親の役割と夫婦の関係性に着目した検討～

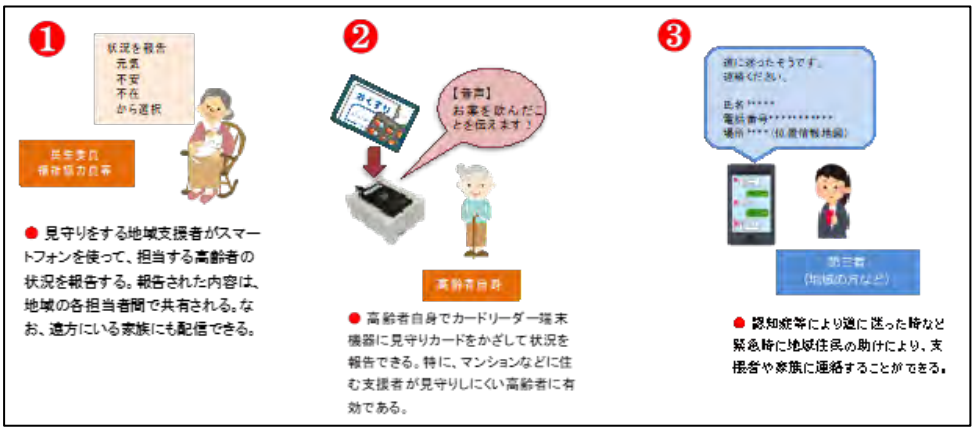
高齢者を見守る地域関係者の連携を支援するシステムの開発

［研究代表者］
辻　利則（宮崎公立大学　教授）

Ⅰ　研究の成果

要支援者の見守りに関するシステムは、要支援者が電話等で連絡をするもの、カメラやセンサ等によるもの、AI を搭載した対話型ロボットなど家族での見守りを考えたものは多い。医療、介護関係者においては、情報共有を行う在宅医療介護連携 ICT システムなど既に利用されている。しかしながら、地域住民が支援の中心となる見守りについては、通常の電話や電子メールの利用に留まっており、地域住民が利用できる見守りをシステム化したものはあまりみられない。その理由には、要支援者の個人情報の取り扱いの困難さ、また支援者（民生委員・児童委員など）の高齢化による操作性の課題などがある。現在のような支援者に大きな負担となる見守り活動は、地域のつながりの希薄化とともに支援者の担い手不足に拍車をかけている。

そこで、本研究では地域で活動する支援者（民生委員・児童委員、ボランティア、地域住民など）による見守り活動を支援するシステムの構築を行なった。見守り情報は、①地域支援者の対面による見守り情報の報告、②高齢者自身による生活状況等の報告、③一般の地域住民による緊急時等の報告、の３つの方法で状況を報告できることを可能にし、見守り活動を行う支援者（特に民生委員・児童委員）、そして家族が情報共有することで、効率的な見守り活動を実現することを目指した。本システムの導入で課題となる個人情報の取り扱いについては、地域の見守りに特化することで、介護サービス等で必要とされる個人情報（氏名・年齢・住所・世帯情報・要介護度・医療情報など）を全く利用しないことが特徴となっている。



2021 年前期に見守りシステムのプロトタイプを作成・動作確認を行い、2021 年 8 月～12 月まで小規模な実証実験（要支援者 10 名）を実施した。

【実施場所】宮崎市中央西地域自治区

令和 3 年 4 月 1 日現在の世帯数：10,442 世帯、人口：19,809 人、高齢化率：23.9%、自治会加入率：44.7%

【対 象 者】中央西地区地域包括支援センター

・支援者（15 名程度）：在宅医療・介護職員中央西地区の民生委員・児童委員、福祉協力員

・要支援者（10 名）：支援が必要として登録されている方のうち承諾された方

【実施結果】参加した関係者（上記支援者）へのヒアリングより、

① 地域の見守りを行う関係者同士で情報を共有でき、接触の機会の少ない地域の支援者と在宅医療・介護従事者の連携が深まり、効率的な見守り活動ができるようになった。

② 見守り報告により支援者の負担が軽減された。具体的な負担の軽減例として、

●見守り訪問で支援者が不安になる要支援者「不在」の際の対応では、何度も様子を見に行く必要が無くなった。

●通常、地域の支援者の見守り回数は月に１回程度であるが、見守り用カードリーダーにより生活状況や体調を要支援者自身が報告することで、見守り活動が軽減された。

③ 地域の支援者の見守り情報は要支援者の家族にも送信できるため、遠方の家族との電話による会話が増えたという効果もあった。

【課　　題】

支援者の民生委員・福祉協力委員へのヒアリングで、見守りの負担が減少することへの前向きな意見が多く聞けた一方で、情報機器への不安や抵抗感のある人もいた。地域支援者の理解が重要なため、利用法など分かりやすく伝える工夫が必要であり、スマートフォンについては、コロナ禍以降、関心が高いため、機器の取り扱いの研修会等を積極的に開催する必要がある。

また、本システムは、クラウドサービスと LINE 公式アカウントなどインターネットサービスを用いたシステムとなっているため、本研究の実施場所（中央西地区）だけでなく、宮崎市内全域、または全国どこでも利用可能である。しかし、県外からの問合せがあっても、導入までの設定が管理者の手動となっていた。今後は、全国どこの地区でも導入できるように、Web 上で手続き（設定等）でき、広くどこでも簡単に利用できるシステムにする必要がある。

Ⅱ　研究成果の活用

地域包括ケアシステムを実施する上で、高齢者の介護状態はそれぞれ異なり、地域住民が関わることも多くあることから、在宅医療・介護従事者と実際に地域で活動する住民との連携が必要不可欠であることを理解する必要がある。

その際に重要なことは、住民と市が一緒になって課題に取り組むことであり、現在進められている地域の DX 化などは、とても良い機会である。デジタル化することは、システム化することであり、それには地域の現状をしっかり把握しておく必要がある。データ化することで課題も見え、よりよい DX 化が期待できる。中央西地区では本シス

テム開発のために、在宅医療・介護従事者や多くの地域住民の方が集まり、地域の見守りについて考えてきた。それにはシステムに関連することだけでなく、他の様々な課題も話し合い、システム化することなく解決することもあった。まさしく本来の DX 化を目指した活動となっている。
技術進歩の激しい現在の事業の進め方としては、DX 化だからといって一つのシステムに縛られる必要はない。もし市が福祉の DX 化に取り組むとして、本研究成果を活用するとするならば、本システムはだれにでもわかりやすいシステムを目指して作られているため、たとえば 本システムをたたき台に福祉の DX 化の議論を進める こともよいだろう。個人情報の取り扱いや民生委員・児童委員の仕事、地域の重要性など様々な意見とともに 地域を見直す良い機会 になり、理解も進むだろう。いずれにしても、実際に福祉の DX 化を目指すのか、現在の状態のままでよいのか、市の判断によるところである。

育児に関する相談行動の促進を目指した介入プログラムの開発

～育児における父親の役割と夫婦の関係性に着目した検討～

［研究代表者］

川瀬　隆千（宮崎公立大学　教授）

［研究分担者］

野﨑 秀正（宮崎公立大学　教授）
立元　真　（宮崎大学　教授）
後藤 大士（臨床心理士）
岩切 祥子（臨床心理士）
坂邉 夕子（臨床心理士）
岡本 憲和（臨床心理士）

Ⅰ　研究の成果

●研究目的

本研究の目的は、母親だけではなく父親も含めた夫婦（家族）を、子育てにおいて互いに影響を与えあうひとつのシステムとして考える包括的なアプローチにより、子育てに悩む親が相談機関を積極的に活用できるようになるための介入プログラムを開発し、その効果を検証することです。

近年、わが国では、児童虐待をはじめ親の子育てに関する問題が深刻です。この問題の背景には、子育ての悩みを外部に相談できず、ストレスを抱えた親の存在が多いという現状があります。

こうした課題を解決するためには、「なぜ、子育てについての援助が必要なのにそれを求めようとしないのか」という問題についてその心理メカニズムを明らかにし、それに基づいて相談行動を促進させるための方策を提言、実施することが必要です。

心理学の専門家である大学教員と現場で日常的に相談活動に携わっている臨床心理士・公認心理師（カウンセラー）から構成される私たちの研究グループも、こうした問題解決のための研究をこれまで進めてきました。特に、令和元年度の宮崎市地域貢献学術研究助成により実施した研究では、援助要請（相談）行動を促進させるための介入プログラムを開発しました。しかし、この研究では、①プログラムの妥当性と信頼性が低い、②母親だけを対象にしていたため、母親と同様に子育てに携わっている父親の存在を想定していない、③相談される側の公的相談機関に対する提言を実施していない、という点が問題点として指摘されます。

これらの問題点について、本研究の初年度（令和 2 年度）では、②に焦点を当て、父親の相談行動に対する心理と母親の相談行動における父親の存在の影響について調査研究を行い、育児の悩みに関する母親の公的機関への相談意図には夫（父親）の存在が影響を与えているという新しい知見を提供することができました。

研究初年度の研究成果を踏まえて、本研究の 2 年目（令和 3 年度）では、相談行動促進介入プログラム（改良版）を新たに開発することを目的とします。開発された介入プログラムは、①の課題を克服するべく、さらに大規模なデータを採ることで、相談行動促進に対する効果を検証します。

さらに、③の課題を克服するべく、令和 2 年度の研究成果や開発した介入プログラムを基に作成したブックレットを宮崎市内の各相談機関に配布し、さらに相談を促すための効果的な取り組みに関するセミナーを開催することで、子育ての悩みを抱える親という相談する側への介入だけではなく、相談を受ける側（公的相談機関）への提言も行い、相談活動を促進するための包括的なアプローチからの研究を実施します。

●研究方法

令和元年度に本研究グループが開発した相談行動促進のための介入プログラムに、令和 2 年度に実施する父親も対象にして行った基礎調査の結果を含めて新たな相談行動促進介入プログラム（改良版）を作成します。プログラムは教材化し、さまざまな用途に対応できるように整えます。開発した介入プログラムは、母親だけではなく父

親も対象として実施します。プログラムの実施の前後に参加者の相談行動に対する態度及び相談意図等に関する質問紙調査を実施し、その変化を測定することで、プログラムの効果を検証します。

さらに、相談を受ける側も含んだ包括的な問題解決のアプローチとするため、令和2年度の研究成果とプログラムの内容を基に作成した相談行動促進のためのポイントを記載したブックレットを作成して宮崎市内の各相談機関に配布し、さらに各相談機関に所属する相談員を対象に悩みを抱えた親の相談を促すための効果的な取り組みに関するセミナーを開催します。

●研究結果

1）相談行動促進介入プログラム（改良版）の開発と実施

研究初年度（令和 2 年度）の調査研究で明らかになった内容を踏まえて、以下の内容から構成される「相談行動促進介入プログラム（改良版）」を新たに開発しました（添付資料１）。内容は、①子育ての悩みにどのように対処すればよいのか、②子育てに関する相談ができない心理的な原因、③相談することの効果と有効性、④相談のタイミングや相談先、⑤具体的な対応事例です。このうち、⑤具体的な対応事例の説明では、セミナー参加者の理解を促進するため、動画での説明を加えました。

新たに開発した「相談行動促進介入プログラム（改良版）」を用いて母親だけではなく父親も対象としたセミナーを実施しました。なお、新型コロナウィルス感染拡大の影響により、当初の予定を変更し、Zoom を用いたリモートによるセミナーを行いました。

セミナー参加者は 12 名でした。セミナーの前後での効果測定に回答した 9 名の結果を分析した結果、「相談行動促進介入プログラム（改良版）」によって、親の公的相談機関に対する相談意図が向上することが明らかになりました。また、相談に伴う不安の低減、相談の効果に対する態度の向上も認められました。さらに、相談に伴う配偶者（夫）からの束縛等のネガティブな影響も低減することが明らかになりました（表 1 参照）。

表1　プログラム介入前後における援助要請意図得点と援助要請への態度得点の平均値の比較

項目	*n*	平均値 介入前	平均値 介入後	*t* 値	効果量 (d)
相談意図　「相談しようと思うか」	9	3.11	4.56	-3.04 *	1.42
＜相談への態度＞					
1，「どこに相談していいかわからない」	9	3.44	1.67	3.41 **	1.56
2，「相談しても解決しない」	9	3.22	2.00	4.40 **	0.83
3，「何を言われるかわからないので不安」	9	3.11	1.56	5.29 **	0.88
4，「子どもがつらい思いをするかもしれない」	9	2.67	1.78	2.29	1.17
5，「私にとって望ましい結果になる」	9	3.22	3.78	-1.47	1.13
6，「だめな親と思われるかもしれない」	9	2.00	1.33	2.00	1.00
7，「私の気持ちが楽になる」	9	3.67	4.67	-4.24 **	0.71
8，「相談せずに親が解決するべきである」	9	1.89	1.78	0.42	0.78
9，「夫がどう思うかに関係なく相談することが大事」	9	3.00	4.56	-4.13 **	1.13
10，「相談するかどうかは夫がどう思うかで決まる」	9	3.00	1.89	2.86 *	1.17

（注　* $p<.05$，** $p<.01$

セミナーは新型コロナウィルス感染拡大の影響により、リモートで実施しましたが、対面での実施と同様に効果があることが明らかになりました。リモートでの実施となったこともあり、事前に配付した案内（1000 部）に対し、セミナーの参加率が極端に低い（1.2%）結果でしたが、今後は今回開発した「相談行動促進介入プログラム（改良版）」を保育所・幼稚園などの施設やイベント等で実施していく予定です。

２）公的相談機関に対する情報提供・提言

令和 2 年度の研究成果と「相談行動促進介入プログラム（改良版）」の内容を基にブックレット（添付資料②）を作成し、宮崎市内の各相談機関に配布するとともに、相談を促すための効果的な取り組みについてオンデマンド形式での情報提供を行いました。

相談機関の相談員を対象に、相談する親の心理と介入方法について情報提供することを通して、相談する側への介入だけでなく、相談を受ける側への提言も行い、子育てに悩む親の相談行動を促すことができます。

ブックレットでは、①相談できない親の実態を先行研究の結果や令和 2 年度の研究結果をもとに説明するとともに、②心理学の観点から、相談できない親の心理を説明しました。また、③相談できない親を類型化し、それぞれのタイプ別に介入方法を説明し、④相談員（心理士）の対応事例を紹介しました。

さらに、このブックレットを使用したオンデマンドセミナーの動画（１時間）を作成しました。当初、対面のセミナーを予定していましたが、新型コロナウィルス感染拡大により予定を変更し、オンデマンド形式のセミナーを実施することにしました。

作成したブックレットとオンデマンドセミナー動画へのアクセス情報等の案内を、主に子育て相談を担っている宮崎市内の子育て相談関連施設（子育て支援センター、保健所等）42 箇所に郵送しました。

今後は、今回開発したブックレットを用いたセミナーが相談機関の相談員のスキルや態度に及ぼす効果を分析するとともに、ブックレットやオンデマンドセミナーを市内の保育所や幼稚園にも案内し、子育て相談の促進のための啓発を行う予定です。

Ⅱ　研究成果の活用

今回開発した「相談行動促進介入プログラム（改良版）」は、親の公的相談機関に対する相談意図の向上、相談に伴う不安の低減と相談効果に対する態度の向上に効果があることが認められました。さらに、相談に伴う配偶者（夫）からの束縛等のネガティブな影響も低減することが明らかになりました。

また、公的相談機関の相談員を対象に、相談できない親の実態や心理を説明し、相談できない親のタイプ別介入方法や相談員（心理士）の対応事例を紹介したブックレットとそれを用いたオンデマンドセミナー動画も開発し、子育て相談施設に送付しま

した。

今後は行政や子育て相談施設との連携を深め、これらのツールを有効に活用してもらい、また、その結果を踏まえて内容を継続的に改良することで、宮崎市全体で、子育て相談の促進、育児ストレスの低減、児童虐待の未然防止に役立てることができると考えます。

令和 3(2021)年度 宮崎公立大学学術研究推進助成事業

令和３(2021)年度　宮崎公立大学学術研究推進助成事業

No.	職　氏　名	研　　究　　課　　題
1	教授 野崎　秀正	「教育フォーラム」の開催による宮崎公立大学を ハブとする教育ネットワークの構築
2	教授 永松　　敦	東アジア十五夜行事の研究 ―日向景清伝説を通して―
3	准教授 田村　恵理子	国際人道法のジェンダー分析とその意義
4	准教授 稲田　光朗	農業用ダム建設の政策評価 ―嘉南大訓を事例に―
5	准教授 寺町　晋哉	図書出版助成事業 『〈教師の人生〉と向き合うジェンダー教育実践』

「教育フォーラム」の開催による宮崎公立大学を

ハブとする教育ネットワークの構築

［研究代表者］

野崎　秀正（宮崎公立大学　教授）

［研究分担者］

竹野　　茂　（宮崎公立大学　教授）

松本　祐子（宮崎公立大学　教授）

寺町　晋哉（宮崎公立大学　准教授）

Ⅰ　実施概要

本事業は、より効果的な英語教育（英語授業）を実践的に考える機会を持ち、宮崎県英語教育のさらなる活性化に貢献すること、具体的には、①英語教育に関して実践に基づく問題点や悩みを共有し、改善や解決を図る、②英語授業で効果的な活動やアイディアを共有する、③情報交換を通して、教員間、卒業生と在校生、および大学と地域のネットワークを広げ、相互の親睦を図る、3 つの目的により実施された。開催日時は、令和3年12月 11 日 （土）13 時から17 時20 分の間で行われた。新型コロナウィルス感染拡大の影響を鑑み、昨年同様に Zoom を使用したリモート開催とした。まずは、授業実践報告が行われ、宮崎市立田野小学校教諭の藤原綾子氏、沖縄市立安慶田中学校教諭の伊良波千春氏（本学卒業生)、島根県立松江北高等学校教諭の三原貫氏（本学卒業生)の3名が 本学の 松本祐子教授の司会のもとで授業実践の発表を行った。発表後は、基調講演の講演者である川上典子教授から助言をいただいた。授業実践報告の後は、鹿児島純心女子大学の川上典子教授による「新学習指導要領に沿った評価のあり方 - 学習意欲を高める評価へのヒント - 」と題した基調講演が行われた。その後は、Zoom のブレイクアウトルーム機能を使った情報交換・グループ討議が各校種別に行われ、活発な議論が行われた。スタッフである本学の教職員と発表者・講演者を除く最終的な参加者は 60 名（現職教 員など一般参加者 18 名、本学学生 42 名）であった 。

Ⅱ　本事業実施により得た成果・効果等

本事業の成果であるが、フォーラム後に実施したアンケート調査の結果により、 現職教諭及び本学の学生から、英語教育の最新の情報に触れることによりこれまでまたはこれからの授業実践を見直すヒントになったとの回答を多数得ることができた。これは、①英語教育に関して実践に基づく問題点や悩みを共有し、改善や解決を図る 、と②英語授業で効果的な活動やア イディアを共有する、の 2 つの目的を達成したことを示し、地域の教育力の向上と本学学生の学習意欲や教職に就くことへの意欲向上への効果がみられたといえる。また、授業実践報告と基調講演の後に行われた情報交換・グループ討議では、主に本学学生から現職教員や発表者への活発な質疑が行われていた。このことは、③情報交換を通して、教員間、卒業生と在校生、および大学と地域のネットワークを広げ、相互の親睦を図る、の目的を達成したことを示しており、連絡先の交換も行われるなど本学をハブとした地域の英語教員ネットワークの構築に大きな成果があったと思われる。

Ⅲ　問題点および今後の課題等

今回で4 回目の開催となった英語教育フォーラムであるが 、今後の発展的な実施を目

指して、今回の問 題点と課題について以下の 2 つが考えられた 。1 つ目は、実施時期である。今回のフォーラムは、これまでと同様年末に実施されたが、年 末は現職教員が多忙な時期でもあり、このことが原因で現職教員の参加者が少なかったことが考えられる。そのため、次回は比較的時間に余裕のある夏休み期間 中の開催を検討したい。次に、英語教育だけではなく、それ以外の学校における 課題（生徒指導、総合学習、ジェンダー教育等）も対象にした方がよいのではないかということである。この点については、次回からは「教育フォーラム」と名称を変更し、英語教育に限らず様々な教育的課題を対象にしたフォーラムに発展させたい。

東アジア十五夜行事の研究

―日向景清伝説を通して―

［研究代表者］

永松　敦　（宮崎公立大学　教授）

［研究分担者］

項　　青　（熊本県立大学　講師）

堀尾　里美（人吉旅館　専務）

Ⅰ　実施概要

昨年度からのコロナ禍において、大学教育の意義が厳しく問われる状況のなかで、十五夜行事という共通の文化を有する東アジア各国をオンラインで結び、研究者、ならびに、一般の生活者の方々も含めて、相互に文化理解を深めるために、昨年度に引き続き十五夜シンポジウムを開催した。中国では中秋節、韓国では秋夕（李俎）、日本国内ではお月見・十五夜の愛称で親しまれている。国内での在日コリアンの方々から秋夕の行事を詳細にご報告いただいた。研究者間の交流により、また、民俗学演習の 3 年生全員の参加と報告がなされた。研究者間の交流により、佐野愛子先生（進和外語アカデミー）と中国の濯艶賢先生（広西民族大学）によりベトナムの中秋節の報告がなされた。韓国安東市の金俊漢氏、通訳は堀尾里美氏が担当した。さらに、国内の在日コリアンの李信恵氏による大阪コリアタウンの秋夕、宮崎市からは大学近くのオモニのまんま亭を営む押川敬姫氏からの報告をいただいた。なお、押川氏宅での秋夕の先祖祭祀を見学する機会を頂戴した。

Ⅱ　本事業実施により得た成果・効果等

昨年度から 2 回目の十五夜日中韓オンラインシンポジウムを開催し、宮崎市民にもかなり東アジアの十五夜行事の共通点について、知識が浸透してきたと考えられる。オンラインながら多くの一般市民の参加もあり、東アジアの共通の文化の認識と、在日外国人の正しい文化理解にも貢献したと言えよう。特に、宮崎市、および県内全域においては十五夜綱引き、子どもだけの各家の巡回によるお菓子貰いなど、行事の盛んな地域である。市民の身近な行事として定着しているので、東アジアの十五夜シンポジウムへの関心は毎回高くなってきている。特に、日中韓の文化的共通点は、相互の交流に発展しやすく、在日外国人も含めて、同じ十五夜の文化を有する同朋として、一堂に会して共同で調査研究できる環境にある。本研究のテーマである平家の落人であり、能・歌舞伎の主役となった景清の命日が、なぜ、日向では旧暦 8 月 15 日なのか、という問題も、半島の先祖供養との関りから見ていく必要もある。本シンポジウムの報告は本学紀要 2 大 9 巻に「第 2 回日中韓十五夜シンポジウム」と題して掲載している。さらに、日本民俗学会第 914 回談話会で「民俗学における多文化共生
―東アジアの十五夜行事を考える―」を開催（2021 年 7 月）。その報告が学会誌『日本民俗学』309 号（2022. 2）に掲載された。

Ⅲ　問題点および今後の課題等

2022 年度は韓国に渡航して、本シンポジウムを開催する予定なのだが、コロナの関係で学生を引率して渡航できるかどうかが問題だ。韓国・中国の研究者とも協力的なので、問題は疫病の状況だけである。在日コリアンの方々との連携はとれてきたので、在日の中国系の方々との交流を促進させたいと考えている。宮崎はあまり月餅の文化が知られていない。関西や福岡では中華料理店も多いので、月餅は日常的に触れる機会が多いのだが、宮崎ではその名を知る人も少ないのが実状である。韓国の十五夜餅、ソンピョン（松餅）については、先にあげた まんま亭で販売していただき、宮崎での知名度を上げることができた。国内では奄美・沖縄地方の十五夜行事が注目されるところで、今後、沖縄民俗学会とも連携をとりながら進めていきたいと考えている。

国際人道法のジェンダー分析とその意義

［研究代表者］
田村　恵理子　（宮崎公立大学　准教授）

Ⅰ　実施概要

本研究の目的は、伝統的な国際法分野である国際人道法をフェミニズムないしジェンダーの視点から分析し、①人道法は軍隊＝男性中心の視座と経験に依拠し女性にとって抑圧的で差別的な帰結を本来的に内蔵している法といえるのか、どの程度そうであるのか、②そのような法であるとすれば誰がどのような方法で是正しうるのか、③そのような是正要求が男性や性的マイノリティに不公平とならず真のジェンダー平等を達成するために考慮すべきことは何か、を探求することであった。

その結果、①について、人道法は欧米の権力をもつ男性の支配的価値観や利害を反映しており、女性は武力紛争に積極的役割を果たすことのない脆弱で受動的な犠牲者であり、逆に男性はその保護者であり敵と戦う能動的主体であるという（既に社会に蔓延する）二項対立的なジェンダー規範を強化するという効果をもっていることが明らかとなった。②については、人道法の中心的規範である区別原則（＝合法的な軍事目標戦闘員および敵対行為直接参加者に限定すべし）に的を絞ると、とくに現代のアフリカでの武力紛争に参加する女性の多様な敵対行為参加の在り方を男性並みに承認するような法解釈を促す方法がありうるが、当事者が短期的には自らに不利となる立場（＝合法的軍事目標）を主張することは期待しにくく、人道法解釈適用に影響力をもつ軍隊関係者が受け入れるのもジェンダー規範の根深さゆえ困難であるといえる。③については、区別原則の柔軟な解釈それ自体は男性に不利な結果をもたらさず、それどころか、区別原則のジェンダー規範を認識することで、男性ゆえに被る男性特有の被害や軍隊内での暴力その他兵士の人権侵害等に気付く機会を提供しうる。以上から、人道法に刻印されたジェンダー規範の負の帰結を女性の視点から明るみに出すことにより、男性そして性的マイノリティが被ってきた負の側面が認知されるという正のサイクルがあれば、人道法の新たな法解釈を通じて真のジェンダー平等は達成可能であると示された。残された問題は、軍隊関係者を始めとする現場での実践にある。

Ⅱ　本事業実施により得た成果・効果等

主に以下 3 つの成果が得られた：

①宮崎公立大学紀要第 29 巻 1 号への寄稿

書評「Orly Maya Stern, *Gender, Conflict and International Humanitarian Law: A Critique of the "Principle of Distinction"* (Routledge, 2019, 234 pp.)」を掲載した。

②研究報告

2022 年 2 月 26 日京都大学国際法研究会（オンライン）にて、「国際人道法と紛争当事者内関係（*intra*-party relations）の規律―ICC Ntaganda 事件を契機に―」と題する研究報告を行った。

③研究報告

2022 年 3 月 26 日九州国際法研究会（オンライン）にて、「兵士の人権と国際人道法」

と題する研究報告を行った。

以上は、本学の教育・研究の質の向上および本学の認知度向上に役立つものであった。他方、コロナの影響もあって国際交流や地域貢献の点では残念ながら効果的なアウトプットができなかった。

Ⅲ　問題点および今後の課題等

本研究が十分に扱いきれなかった今後の課題は、区別原則以外の人道法の主要規範、とりわけ均衡性原則に反映されたジェンダー規範の分析である。均衡性原則は、合法的軍事目標への攻撃によって得られる軍事的利益と、それにより生じうる文民・民用物への付随的損害とを天秤にかけ、前者と比べ後者が過度に均衡を失していなければ合法とする法規範である。では、かかる文民損害はどのようなジェンダー規範を刻印されており、それによっていかなる不公平が生じうるのか。文民損害は、戦闘員＝男性 対 文民＝女性のジェンダー構図にもかかわらず、男性の経験を標準とし、ゆえに女性がより大きな影響を被るインフラの破壊などは念頭に置かれていないとの指摘がある。この点を検証することが残された課題である。

農業用ダム建設の政策評価

―嘉南大訓を事例に―

［研究代表者］

稲田　光朗　（宮崎公立大学　准教授）

［研究分担者］

山本　裕美　（京都大学名誉教授）

郭　永興　　（台湾国立大中科技大学　教授）

黄　靖嵐　　（台湾農業科技資源運籌管理学会・副研究員）

Ⅰ　実施概要

本年は1年目から継続して行ったデータ整理を通じてできたデータベースを活用して分析を行い、論文としてまとめること、および本事業の最終日程として国際シンポジウムを開催して、本研究の成果を広く公表することを目標とするものであった。しかし、それぞれについて、コロナ禍の影響を大きく被り、進捗には困難を伴った。

まず、作成したデータベースの中に資料の経年劣化のため、複写資料では判別できないデータが多数含まれていた。そのため、本来台湾に再度赴き、資料原本と照らし合わせて資料補完をしなければならなかったが、コロナ禍の影響を被り、台湾出張が叶わなかった。そのため、本事業期間内に論文完成には至らなかった。しかし、暫定的ではあるが主要な分析結果をまとめ、国際シンポジウムで発表することができた。

次に、国際シンポジウムでは、分担者で登壇予定者の一人がコロナ感染の疑いのために参加を取りやめたことに加え、オンライン開催を余儀なくされるなど、開催および参加者募集に制約を被った。しかし、企画係担当職員の協力を仰ぎ、登壇予定者辞退後のプログラム調整、参加者募集の各所への手配を進め、最終的に、参加者5人と少数ながら宮崎市役所・宮崎大学・本学学生からの参加を得て、シンポジウムを無事開催することができた。

Ⅱ　本事業実施により得た成果・効果等

本事業はコロナ禍の影響を被ったが、研究面および国際交流面で一定の成果を上げることができた。研究面では、農業用ダム建設が政策目標であったジャポニカ米生産の拡大に貢献したことを定量的に明らかにできた。一方、インディカ米の生産に加え、農業労働者の賃金や地代は他地域より低水準にとどまっていた。これはダムの建設にもかかわらず、依然として農業用水が不足していたため、ジャポニカ米生産以外では他地域と生産格差を抱えていたことを意味している。つまり、嘉南大訓の建設が当該地域の農業課題をすべて解決したわけではなかったことを初めて明らかにすることができた。

国際交流面では、少数の参加者に留まったが、最終シンポジウムで多様な参加者にアウトリーチできた。宮崎市農政部からの参加者からは、宮崎産品の輸出拡大の可能性及び台湾との農業政策協調について提起を受け、議論を行った。宮崎大学からの参加者からは宮崎商工会議所における台湾市場に関心を持つ経営者会議への参加のお誘いを頂いた。本学学生も複数名参加した。シンポジウム開催は参加者の台湾に対する理解を深め、宮崎と台湾の経済関係拡大を図る産官学関係者間の繋がりを構築する機会となった。

Ⅲ　問題点および今後の課題等

コロナ禍で影響を被った研究面・アウトリーチ面で、今後補完的な活動を進めていきたい。研究面では、上述の通り、データの問題から論文完成には至らなかった。今後、国際移動が緩和され次第、台湾へ出張して、資料を補完したうえで論文を完成し、学会報告など研究発表につなげたい。

アウトリーチ面では、様々な機会を通じて、成果の周知拡大を図りたい。まず、シンポジウムに参加した宮崎市役所農政部の担当者と協力を拡大していくことで合意した 。今後、本学講義での外部講演依頼（依頼済み）から始めて、将来的には本事業に関連するシンポジウムの共催を計画している。次に、本成果を台湾 7 大学と連携協定を結んだ本県高校などへ、出前授業などを通じてアウトリーチ活動を強めたい。提携 7 大学の中には、本研究の対象地域に所在する国立台南大学が含まれており、本県高校生に関心を持ってもらえるかもしれない。さらに、コロナ禍で登壇が叶わなかった分担者の講演については、令和 4 年度自主講座での代替開催を検討している 。最後に、今回参加した台湾からの登壇者と継続して協力していくことにも合意した。機会と必要性があれば、本学と台湾の大学との交流協定締結も見据えて、交流深化に努力したい 。

図　書　出　版

『〈教師の人生〉と向き合うジェンダー教育実践』

［著　者］
寺町　晋哉　（宮崎公立大学　准教授）

出版図書概要

出版物の名称：『〈教師の人生〉と向き合うジェンダー教育実践』
著　　者：寺町　晋哉　（宮崎公立大学　准教授）
出　版　日：令和 3 年 8 月 20 日
判　　型：4-6
ページ：214 ページ
ISBN：978-4-7710-3516-4
出　版　社：晃洋書房
定　　価：2,750 円(税込み)

内容説明

「先生は女子に甘い」「男の子なのにメソメソしない」　・・・教師はジェンダーを「再生産する担い手」なのか？
教師に「変革の担い手」の役割を求める中で忘れられてきたことがある。
それは「教師も一人の人間であり、その人の人生がある」ということだ。
教師は、その役割と葛藤したり、ジェンダーをめぐる教育課題を変革する実践（ジェンダー教育実践）との関係で困難が生じたりする。
ジェンダー平等な学校をつくるために、ジェンダーから影響を受けて人生を歩んできた教師たちができることとは何か。
ジェンダー教育実践を推進していくために必要な視点を示す試み。

著者による著作紹介

テーマは「ジェンダー平等な学校を目指すためにジェンダーから影響を受けた教師たちができることは何か？」です。「ジェンダーセンシティブであること」を前提なく求められる「教師の役割」に対して、「教師も 1 人の人であること」や「ジェンダー化された人生を歩んでいること」をふまえた議論を意図しています。

研究に馴染みのない方々へも読んでもらえる文章を目指しました。時折ややこしい箇所があるかもしれませんが読み飛ばしても大丈夫ですし、事例だけ読んでもらっても問題ないと思います。教育に携わる人たちだけでなく、多くの方々へ広く読まれることを願っています。

1 章はジェンダーをめぐる教育上の課題を教科書的に整理した後、そうした課題へ対抗するための実践（ジェンダー教育実践）を整理しています。そのジェンダー教育実践において「ジェンダーへセンシティブであること」が重視されてきました。しかし、このことが「教師の人生（著書では〈教師〉）」をふまえると困難を伴う関係ではないかと問題提起しています。その上で、本書で明らかにする 5 点を示しています。

2 章は、「教職課程でジェンダーを学ぶのか？」というシンプルな問いです。教職課程とジェンダーの学びの実態について整理しています。

3 章は、「女子のトラブル」へ対処する過程で、結果的にジェンダーを再生産してしまう教師の姿を描きます。教師の実践を単に批判するのではなく、実践が置かれている文脈を踏まえること、トラブルを収束させる成果は無視できないことなど、〈教師〉の実践を支える状況について多角的に捉える必要性を訴えています。

4 章はジェンダーへセンシティブでなかった教師が「センシティブであること」へ変容するプロセスを描いています。対象となった先生は同僚の先生から「性差別的では？」と批判され、悩み葛藤してしまいます。「あるべき教師像」のプレッシャーから苦しんでいた先生がいかに「センシティブであること」を獲得し、変容していくのか。

そのプロセスを描いてます。

5 章は教師集団でジェンダー教育実践を行うことの可能性と限界について書いています。比較的集団で取り組まれやすい実践とそうではない実践を区別するものは何か？キーとなるのが「教師の価値観へ踏み込むかどうか」です。「協働」という概念に着目し、教師集団で取り組むジェンダー教育実践について描いています。

6 章は小学校の先生たちと協力し、初めてのジェンダー教育実践を取り組むまでのプロセスを描いてます。学校現場の先生たちと一緒に研究者ができることを考えた章です。

7 章は各章の知見をふまえ、なぜ「ジェンダーセンシティブであること」が難しいのか？〈教師の人生〉をふまえてジェンダー教育実践を進めるための手立ては何か？についてまとめました。

Ⅲ　連　携　協　力　事　業

宮崎市教育委員会との連携協力

宮崎市教育委員会との令和3(2021)年度連携協力事業については、以下のとおりである。

1　宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう、昨年に引き続き半年間、英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

2　宮崎東中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3､4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成26(2014)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

3　大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：半年間）

教員を目指している4年生が、卒業後、不安なく教壇に立てるよう平成27(2015)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

4　大宮中学校における英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3､4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成29(2017)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

5　その他の活動

宮崎西中学校における学校支援ボランティア

①　サマースクール支援（夏季休業中）

夏休み期間中のサマースクール（学習会）において、教職課程を履修している学生が中学生への学習支援を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

②　英語検定二次試験面接指導

英語検定を受験する生徒を対象にした二次試験（面接）の指導に、教職課程を履修している学生が面接官役になって指導を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

③　英語学習アシスタント活動（長期：1年間）

教員を目指している3､4年生が、教育実習前の中学校での学校体験として、平成30(2018)年度から英語学習アシスタント活動を行う。

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

6　ひむかかるた競技大会（令和4年3月19日(土)、アリストンホテル宮崎）

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインを併用し規模を縮小して実施

＜宮崎県教育委員会主催事業＞

スクールトライアル事業への参加（短期：3日間）

昨年度に引き続き、教員を目指す2､3年生に対して、教育実習とは別に、教員の業務に対する理解や子どもとのコミュニケーションを図る機会を提供する。

●2年生10名、3年生8名、計18名参加

宮崎銀行・宮崎太陽銀行との連携協力

◎ 令和3(2021)年度業界研究セミナー講師派遣　(宮崎銀行)

本学が実施した業界研究セミナーに、講師として行員を派遣いただいた。

(1) 実　施　日　令和4年1月20日（木）
(2) 参 加 者 数　5名
(3) 方　　法　オンライン開催

◎ 「キャリア設計Ⅱ」の講義での企業訪問受け入れ(宮崎銀行・宮崎太陽銀行)

本学の後期開講科目である「キャリア設計Ⅱ」で行う学生の企業・自治体インタビューに行員の方を派遣いただいた。

（宮崎市地元とつながる人材育成支援事業/「宮崎×キャリア」の探求2021）

(1) 実　施　日　令和3年11月30日（火）・12月7日（火）
(2) 参加学生数　宮崎銀行　24名・宮崎太陽銀行　18名

◎ 令和3(2021)年度インターンシップへの本学学生の参加

(宮崎銀行・宮崎太陽銀行)

＊夏期インターンシップ（公募）　宮崎銀行　0名、宮崎太陽銀行　2名

宮崎日日新聞社との連携協力

本学では、学生が時事問題や地域の課題について関心を高めるため、新聞を活用した講義（※）を設け、宮崎日日新聞社から、その講義に、記者などを講師として派遣していただいている。

※令和 2(2020)年度後期「時事問題ガイド」（主に 1 年生対象科目）
令和 3 年 10 月 1 日（金）～令和 4 年 1 月 21 日（金）15 回講義を実施

令和３年（2021 年）　10 月 5 日(火)
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（1）～宮崎公立大学時事問題講義
新聞を読み方

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽1

新聞の読み方

上原幹生（かんばら・みきお）編集委員。1995年入社。報道部次長、総務部次長、メディア企画部長などを経て2021年4月から現職。日向市出身。52歳。

新聞記事には重要な情報を前の段落に盛り込み、その補足を後の段落で書いていく「逆三角形」の論理がある。特に第一段落（リード）は記事の要約部分。記事の内容を的確に表現した見出しとリードを読むことで短時間、効率的にニュースの全容を把握できる。新聞の特性の一つ「一覧性」がなせる業だ。

今年の「全国学力テスト」では、新聞を読んでいる児童生徒ほど正答率が高いという結果が表れた。完成された日本語で書かれた記事を読むことで読解力や理解力、語彙力、表現力、考える力が養われる。新聞は国内外の膨大なニュースの価値を判断・整理して掲載しており、政治、経済、社会、文化などあらゆる分野の情報に触れることで知識も増える。

また、これまで関心がなかった分野でも、見出しや記事

多様な情報 視野拡大

が何げなく目に入ってくることによって関心を呼び覚まされ、さまざまな「気付き」を得られる。この積み重ねによって視野が広がり、物事の本質を見極める力が身に付く。ビジネスシーンでは、仕事相手との良好なコミュニケーションを図るための話題作り、仕事のヒントを得ることにもつながるだろう。

ネットの普及が著しい。速報性や情報量に優れ、手軽にニュースに触れられる一方、大量の真偽不明な情報やデマの発信・拡散が社会問題化している。そんな情報時代だからこそ、記者が事実に迫り、丹念な取材に裏付けられた客観性、正確性、信頼性を保つ新聞の存在意義がある。

学生の感想

【１年、一原実花さん】新聞を正しく読んで、情報の取捨選択や意見の形成に役立てたい。

【１年、稲垣洸太さん】新聞とネット記事の違いの説明は、すごく納得できることが多かった。

【１年、大石奈都美さん】新聞の価値を改めて知ることができた。新聞を読むことは社会についての知識が得られるだけでなく、読解力などの学力面にも影響を与えることが分かった。現在のネット社会に対して、新聞の信頼性からデマなどへの対応もでき、新聞特有の価値があることを理解できた。

【１年、永田神楽さん】今まで難しそうだという理由で新聞に手を付けていなかった。新聞の意義、役割、読むコツなどを知ることができ、新聞に興味が出てきた。

【１年、中畑悠花さん】新聞には活字がたくさん載っているので面倒、という理由で読むことを諦めていたが、見出しとリードさえ読めば内容がつかめることを知り、新聞への抵抗感が減った。新聞は情報の取捨選択をスムーズにできる糧となり、自分の可能性をさまざまな方向に広げていける。

（１日公開の講義から）

令和３年（2021 年） 10 月 12 日（火）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（2）～宮崎公立大学時事問題講義
五輪・パラ報道

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽２

五輪・パラ報道

３記者での講義。斉藤真広編集委員室編集委員「オリンピックと新聞」、中野裕二運動部記者「コロナ禍の東京五輪取材」、米丸悟写真映像部

斉藤真広（さいとう・まさひろ）編集委員。１９９１年入社。運動部次長、報道部長、整理部長、日南支社長、整理部長などを経て２０２１年４月から現職。宮崎市出身。54歳。

地元紙の立場で記事

【斉藤編集委員】東京五輪での柔道男子の井上康生監督（宮崎市出身）は、２０００年のシドニー五輪では１００キロ級で国民的スター選手だった。読者の「知りたい」に応える地元紙として、現地での試合内容はもちろん、あらゆる情報を紙面で報じるため全社を挙げて取り組んだ。

また、歴史的に五輪は政治利用されてきた側面もある。スポーツに力があるからこそだ。それを防ぎ過度な商業主義に走らせないためにも、新聞がスポーツの持つ本質を報道することは重要だ。

【中野記者】今回の東京五輪での本県関係選手は11人。コロナ禍であっても、伝えるべき情報を得なければならない。少しでも選手の内面やサイドストーリーに迫れるように、県内の競技関係者や指導者らに当たり、地元紙にしか書けないような記事を出すことを心掛けた。コロナに罹患すると取材が不可能。日常から細心の注意を払った。

【米丸記者】共同通信に出向し取材班に加わった。１日の写真配信は、今回の東京五輪は約１５００枚で、前回の東京大会（１９６４年）は平均53枚。デジタルカメラの進化や、撮影と同時に写真に音声データを載せ、カメラから直送する手法などが確立されたからだ。写真には記録性もあり、現場の雰囲気を分かりやすく伝えるには欠かせない。

学生の感想

【１年、日置勇羽さん】新聞でしか伝わらないスポーツの魅力があると再認識した。個々の選手にスポットを当ててより詳しく取材するからこそ伝わる魅力もある。新聞のスポーツ報道に注目したい。

【１年、日髙響花さん】取材は人脈と地道に綿密な計画が求められると知った。柔道の井上康生さんの取材の歴史を通して、選手と記者という垣根を越えて、地元紙として地域で育て見守るような関係性を感じた。また、客観的な新聞報道だからこそ、スポーツの政治利用などを抑制する力があると納得した。

【１年、吉本瑞樹さん】新型コロナの影響でテレビ観戦のみ。「本当に日本でやっているのか」と感じていたが、実際の取材に携わった記者の方の話を聞けてモヤモヤが晴れた。

【１年、藤本萌香さん】新聞記者は、常に時間との勝負で前もって準備しておくことが大切だという話が印象的だった。社会人となる私たちにも当てはまる。

【１年、米良莉湖さん】新聞に使われていた写真が、講義された記者の撮影と知り驚いた。コロナ禍でもあり、取材や撮影の苦労も伝わってきて、興味深かった。

（８日公開の講義から）

令和３年（2021 年） 10 月 16 日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（3）～宮崎公立大学時事問題講義
働き方あれこれ

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽3

働き方あれこれ

朝ドラ主人公のモネちゃんも悩んだように、地元に就職するか否かは人生の大テーマ。決断のヒントとなる県内企業をいくつか紹介したい。

樋口由香（ひぐち・ゆか）経済部長。1993年入社。延岡支社、報道部次長、NC整理グループ編集委員などを経て2020年4月から現職。国富町出身。

アンテナ高く挑戦を

本県は日本有数の農業県。売上高100億円以上の企業ランキング（2020年度、東京商工リサーチ調べ）を見ても霧島酒造（都城市）、児湯食鳥（川南町）など上位5社はすべて食品関係が占める。

ICT（情報関連技術）化の波は全産業に波及しており、ピーマンの自動収穫ロボットを開発する「アグリスト」（新富町）など農業ベンチャーも躍進。3D関連ではCG工房（宮崎市）やL・A・B（同）が業績を伸ばす。「スパークジャパン」（宮崎市）の岡田憲明社長など大学在学中に起業した経営者も少なくない。

ITベンチャーでは2007年にECサイト構築「アラタナ」が創業。ZOZOに吸収合併された後も社員たちは本県に残って起業、ユニークな事業を展開している。来夏、青島に完成する「NOTA HOTEL」は住まいの概念を変えるビジネスモデルとして注目される。

新型コロナウイルス禍はテレワークやオンライン会議など働き方を大きく変えた。国が推進する副業・兼業も広がりつつある。

さらに、イラストをオンライン上で販売して生計を立てている男性など、デジタル化の進展は多様な働き方を後押しする。変化のスピードが加速する中、アンテナを高くして多くの可能性にチャレンジしてほしい。

学生の感想

【1年、藤丸さくらさん】大企業に勤めたら人生が成功に向かうと思っていたが、今の時代は大企業でも倒産するリスクが高く、進化し続ける企業が生き残ると学んだ。

【1年、森﨑日南子さん】宮崎には想像していたより魅力的な企業がたくさんあった。県外出身だが、宮崎で就職するのもいいなと思った。

【1年、末廣桃菜さん】何か大きな挑戦をするには東京や大阪といった大都市に行くしかないと思っていたが、宮崎でも挑戦する機会が平等にあると実感した。

【1年、内村麻里菜さん】変革の時代で働き方にも多様性が求められていると知り、働くことに対する意識が変わった。これまで宮崎での就職は考えてなかったが、「地元」や「就職」といった形にとらわれず、視野を広げて自分の興味のある分野を探そうと思った。

【2年、吉田瑞姫さん】宮崎関連の企業と国内外のビジネスについての比較が面白く、教養も身に付けることができた。変革の時代、どんなビジネスが生き残るか分からないので常にアンテナを張ってトレンドを知っておきたい。

（15日公開の講義から）

令和３年（2021 年） 10 月 30 日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（4）～宮崎公立大学時事問題講義
「国文祭・芸文祭」

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽4

「国文祭・芸文祭」

本県で7～10月、国民文化祭（国文祭）と全国障害者芸術・文化祭（芸文祭）が開かれた。2020年の予定が新型コロナウイルス流行で1年延期された。延期の方針が決まるまで、準備を進める文化団体などは情報がなく不安を抱いた。8月下旬からは「第5波」により、中止や規模縮小となった事業も多かった。

現場の皆さんの苦労は大きかった。ただ長引くコロナ禍で地域社会が疲弊する中、人々の心や暮らしを潤す文化の力を誰もが求める時期に重なった。「文化の灯」を消すまいと、県内各地では感染防止対策を取りながら地域性あふれるイベントが展開された。閉会式で都倉俊一・文化庁長官は「皆さんの尽力で大会を継続できた。感染リスクを抑えながら文化芸術活動を続けるのは決して不可能ではないと示した」と評価した。

中川美香（なかがわ・みか） 生活文化部長。1993年入社。報道部、日南支社、文化部次長、論説委員会論説委員を経て2017年から現職。都城市出身。50歳。

若者文化 積極発信を

両祭が終わり、ここからが大事だと考えている。例えば神楽や祭りなどの伝統文化には後継者不足といった課題がある。障害のある人が芸術を楽しもうとする時にもハードルがある。両祭では文化のさまざまな見せ方が試され、シンポジウムなどでは課題解決のヒントが探られた。これらを継続して考え、本県の文化の土壌を豊かに耕したい。

個々の生活文化も大事だ。好きな音楽、本、服、食、自然環境…。〝お気に入り〟に包まれていると元気になる。本紙若者情報面にはボードゲーム、サウナ、多肉植物、ホットサンドなどに夢中の若者たちが登場している。若者文化、どんどん発信してほしい。

学生の感想

【１年、中水流実樹さん】コロナ禍であまり文化に触れる機会がなかったが、今回神楽や神話の話を聞いて、伝統文化についてもっと知り、広める側になりたいと思った。

【１年、田中夢さん】宮崎では食文化が一番身近で魅力的。暮らしの中に溶け込んでいる文化に目を向け、大切にする心掛けが必要だ。

【３年、松崎達英さん】宮崎の誇るべき文化は自然、歴史、やはり〝人〟。他者への優しさやぬくもりがある。さまざまな文化の継承のためには、受け手も一人一人が担い手なのだと思えるといい。

【１年、赤嶺小桃さん】コロナ禍で音楽に励まされた。音楽家たちがリモート演奏などいろいろな形で音楽を届けてくれた。人の数だけ多様な文化がある。人が健康であり続けるため文化は不可欠だ。

【１年、吉本瑞樹さん】講義を受け神楽などの文化がすてきだと感じた。私自身はコロナ禍で書道をすることで励まされた。静かに集中して書くことで、先の見えない時代でも心を落ち着けられた。

【１年、横山鈴さん】自分たちの今の暮らしや活動が未来では文化になり得る。自分たちの活動に誇りを持ちたい。

（29日の講義から）

令和３年（2021 年） 11 月６日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（５）～宮崎公立大学時事問題講義
スポーツと地域

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽５

スポーツと地域

大山俊郎（おおやま・としろう）運動部長。１９９５年入社。高鍋支局長、整理部次長、報道部次長などを経て２０１８年から現職。宮崎市出身。50歳。

高校スポーツの大会は新型コロナの影響で昨年度前半、多くが取りやめとなったが、今年は県総体や全国総体などが２年ぶりに開かれ、選手が活躍した。ただコロナの影響で出場辞退も出るなど依然、感染防止に注意が必要だ。

本県でのプロ野球キャンプは今春、無観客で行われ、県によると経済効果が９割近く落ち込み、さまざまな業界が苦境にあえいだ。今月の秋季キャンプから１年半ぶりに観客を入れて行われ、地元への波及効果が期待される。

県はシーガイア・オーシャンドーム跡地に「屋外型トレーニングセンター」を整備する。２０２３年４月に供用開始し、ラグビーのワールドカップ・フランス大会の日本代表合宿誘致が当面の目標。サッカーやラグビーのプロリーグ計８チームを新規誘致し、さらに都城、延岡市などへの呼び込みにつなげる目標を掲げており、「スポーツランドみやざき」のブランド価値をさらに高める狙いがある。

国スポ新施設 活用を

本県で２０２７年に開催予定の国民スポーツ大会（国体から24年に改称）と全国障害者スポーツ大会に向け、準備が進められている。前回の国体でもインフラ整備が進んだが、今回も陸上競技場などが新設される。こうした施設は大会後も合宿や大会の誘致に活用していく必要がある。競技力強化で力を付けた選手が将来指導者として育成に携わったり、競技が開催された市町村でそのスポーツを楽しむ「土壌」がつくられることも大切。ハード、ソフト両面とも将来に生かしていきたい。

学生の感想

【１年、森﨑日南子さん】2027年の国スポに向けた施設の完成が楽しみ。せっかく宮崎で行われるので、観戦など何らかの形で関わり、大会後も競技を楽しみたい。

【１年、後藤幸来さん】昔からキャンプを見に行っていた。興味が湧いたスポーツは調べたり体験したりしたい。皆で盛り上がれるように、早くコロナが収束してほしい。

【１年、末廣桃菜さん】スポーツに興味がなかったけど、コロナの影響を受けた選手らの思いの強さに心を動かされた。熱心にトレーニングする選手を応援したい。

【１年、上野茉菜さん】キャンプや大会に観客や補助員、ボランティアで関わり、円滑な開催・運営に少しでも役に立ちたい。身近な人に伝え、参加する人が増えてほしい。

【１年、山田果林さん】私はダンス部に入っているが、大学祭ではお客さんがいて、やりがいを感じられた。スポーツ選手の励みになるような応援をしていきたい。

【１年、藤本萌香さん】キャンプの観光客に「宮崎は優しい人が多い」と思ってもらえるようなおもてなしをしたい。語学を生かし、困っている外国人客と話ができれば。

（５日の講義から）

令和３年（2021 年） 11 月 13 日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（6）～宮崎公立大学時事問題講義
県都の行方

宮日と考える
宮崎の明日
～公立大時事問題講義から
▽▽6

県都の行方

巣山貴行（すやま・たかゆき）報道部次長。2000年入社。報道部、日向支局、整理部、経済部次長などを経て2018年から現職。宮崎市出身。43歳。

県都である宮崎市の中心市街地再開発が急速に進んでいる。JR宮崎駅西口再開発や県有グラウンド再開発事業、宮崎市庁舎の移転問題など、消費や人の流れを巡る動きも目まぐるしい。

同駅西口再開発は、開発企業に県や同市、経済団体が加わりプロジェクトを進めた。昨年開業した大型商業施設の建設では、周辺の商店街への波及効果も吟味され、宮崎駅前商店街や若草通り一帯への導線強化も図られるなど、公共事業の側面もあった。

6月に鹿島建設、米良電機産業、大和開発などの事業者による再開発が決まった県有グラウンド事業も同駅の北約1キロにある。民間企業の誘致や大学機能の一部移転などが予定され、学生だけで千人規模、民間企業なども含めると2千人規模の人たちが周辺で仕事や食事をすることになる。新たな街が生まれるほどの大規模開発と言え、周辺への影響は非常に大きい。

まちづくりに関心を

検討中の宮崎市庁舎の移転候補地とされる6カ所も同駅の徒歩圏内にある。これらの開発には人口減少に備えた行政やインフラ機能の集約といった狙いが見える。2040年の本県の人口は現在より20万人少ない87万人が予想され、先手を打った対応は欠かせないことだ。だが、無駄があってもいけない。こうした事業でも政治が決定権を持つ部分は多い。身近なまちづくりに興味を持つことは若者が政治や選挙に関心を持つきっかけになる。来年1月の同市長選で候補者の議論にも耳を傾けてほしい。

学生の感想

【1年、横山鈴さん】街づくりに終わり、完成はないのだと感じた。宮崎市と周辺地域の格差は極端だと思う。県が延岡に体育館、都城に陸上競技場を建設する分散の考えはとても良いこと。

【1年、山下梨華子さん】宮崎駅周辺は明るく活気がある印象だが、高千穂通周辺は交通量は多いが暗いと感じる。街を発展させるためには若い人たちの意見が重要。アンケートなどを実施して若者の声に耳を傾けてほしい。

【1年、四位穂波さん】課外活動で街市を活性化させる企画に参加したことがある。街づくりに大切なことが分かるので、できるだけ若者たちの力を借りた方がより街が発展すると思う。

【1年、吉本瑞樹さん】街を発展させるためには若者を集めることが一番効果的だと思う。経済を回すためには若者の消費に目を向けることが良いのではないか。

【1年、日髙美佑さん】私たち県民のためにも地方から来た人のためにも、市街地を若者を中心とした人が集まるにぎやかな場所にしてほしい。宮崎市長選もあるため、これからの宮崎の変化がとても楽しみ。

（12日の講義から）

令和３年（2021 年） 11 月 20 日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（7）～宮崎公立大学時事問題講義
水産業から考える SDGs

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽7

水産業から考えるＳＤＧｓ

奈須貴芳（なす・たかよし）
報道部次長。2002年入社。制作部、写真部、報道部、日南支社、経済部次長などを経て2021年から現職。宮崎市出身。44歳。

県内ベテラン漁師がよく使う言葉「太平洋銀行」。「預けている」のは現金ではなく魚で、適正量の漁獲を続けていれば、利子が付くように、魚資源は再生産され、水産業は永遠に先細ることはない。まさにＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）だ。

だが、国内水産業は衰退が続く。養殖を含む日本の２０１７年の漁獲量は４３０万トンで、ピークだった１９８４年から7割減った。乱獲などが影響したとみられ、資源管理の強化が課題となっている。

一方、ノルウェーではサバ漁などで船ごとに漁獲可能量を割り当てる。収益向上のため、高価格の成魚のみ捕獲するため、早い者勝ちの過当競争が起きず、必然的に乱獲が防がれている。

本県で持続的な漁業の代表格はカツオ一本釣り漁だ。一匹一匹さおで釣る漁法で、成魚だけを狙うことができ、群れを取り尽くすこともない。今年は日南市・南郷漁協の12隻が、持続可能な漁業の世界的基準を満たしているとして、海洋管理協議会（ＭＳＣ、本部・英国）の漁業認証を県内で初取得した。

消費が達成の第一歩

まだ認知度の低いＭＳＣ認証だが、19年にはマクドナルドが「フィレオフィッシュ」に完全認証品の使用を開始。大手スーパーのイオンも取り扱いを拡大させている。海外で「購買は投票と同じ」と言われるほど社会を変える力があるとされる。水産業を糸口とし、持続可能ななりわいで生み出された商品を選択することが、ＳＤＧｓ達成の第一歩になるのではないか。

学生の感想

【１年、赤嶺小桃さん】ＳＤＧｓは、今までのやり方を変えていくイメージが強かったが、カツオ一本釣り漁のように、昔ながらの持続的なやり方を再評価することも大切だと気づいた。

【１年、宇都しずかさん】漁業には後継者不足や乱獲などさまざまな問題があるが、解決策の一つとしてＭＳＣ認証品の積極的な購入に取り組みたい。海の豊かさを守るため、まずは何か行動することが大事だ。

【１年、内村麻里菜さん】持続的な漁業には、「資源や環境を守る」という理念だけでなく、もうかりながら水産資源を永久利用できるようなＳＤＧｓの観点が重要。乱獲が行われない仕組みづくりも急務。

【１年、元すず菜さん】経済発展が続く中国や中東で魚食が普及し、今後日本が買い負ける時代が来る可能性があることに危機感を覚えた。伝統漁法で資源にも優しいカツオ一本釣り漁はもっと見直されるべきだ。

【１年、阿部遥さん】水産資源がうまく永久利用できるようになったならば、ＳＤＧｓの観点から、世界中の貧困に苦しむ人々にも届けられるような取り組みも必要になると感じた。

（19日公開の講義から）

令和３年（2021 年） 11 月 27 日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（8）～宮崎公立大学時事問題講義
新型コロナ新聞報道

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽8

新型コロナ新聞報道

本県で最初に新型コロナウイルスの感染が確認された昨年3月4日以降、コロナは私たちの暮らしに影響を及ぼし続けてきた。宮崎日日新聞

戸高大輔（とだか・だいすけ）報道部長。1992年入社。報道部次長、東京支社報道部長、経済部長などを経て2020年から現職。宮崎市出身。52歳。

事実伝え施策点検も

が、その問題をどう報じてきたのか振り返りたい。

第1に必要なのは「事実を伝える」こと。本県で何件発生したのか、市町村別はどうか、病床数は足りているのか、といった一次情報は大切だ。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置によって、県民生活がどう変わるのかも紙面で説明してきた。

解説的な記事もあった。例えば、感染「第5波」に対して「高年齢者を中心にワクチン接種が進む中、感染力の強いデルタ株が流行し、行動範囲が広く接種機会が少なかった若年層を中心に感染が広がった」とした10月4日付の記事がそうだ。アルバイトができずに生活費に苦しんでいる大学生、激務が続く看護師といった現場の声も紹介した。

第2は「施策点検」。県と市町村の連携、情報開示、医療体制など複数の課題ごとに行政の取り組みを検証した。第3は「県民・読者への啓発」。心ない声で傷ついた高校生やコロナで家族を失った人を記事にし、誹謗中傷の怖さを伝えた。

以上がこれまでの記事だが、ワクチン接種が進んで経口薬が開発され、県民への行動要請が緩和されていく今後も同じスタンスでいいのか、という問題がある。感染者が出ることを軽く見る訳ではないが、状況の変化にも気を配りながら報道の在り方を模索しなければならない。

学生の感想

【1年、川上鈴奈さん】感染者のプライバシーを保護しながら正しい情報を伝える新聞の在り方について難しさを感じた。また、差別や中傷の恐ろしさに関してもあたらためて考えさせられた。

【1年、洲鎌有登さん】差別や偏見の被害に遭わないように顔を紙面に載せない配慮をしていることはよいこと。各都道府県のコロナ対策の比較や、医療従事者、飲食店経営者の体験談を読みたい。

【1年、中畑悠花さん】新聞社がさまざまな配慮や気遣いをして報道していたことに初めて気付いた。これからも真実を伝えてほしい。今、コロナ感染が減り、少しずつ生きやすい生活に戻っているが、より未来が待ち遠しくなるような記事を書いてほしい。

【1年、四位穂波さん】マイナスなニュースだけではなく、プラスになることも扱ってほしい。例えばコロナ禍で誕生した新たな文化や科学技術などを伝えてほしい。

【1年、長崎雄也さん】コロナは症状も恐ろしいが、引き起こされる畏怖の念も恐ろしい。感染者を疎むという結果につながるからだ。こういう状況を避けるためにも、メディアは有益な情報を最小限にとどめて取り扱ってほしい。

（26日の講義から）

令和３年（2021 年） 12 月４日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（9）～宮崎公立大学時事問題講義
新聞写真の役割

宮日と考える
宮崎の明日
～公立大時事問題講義から
▽▽9

新聞写真の役割

新聞紙面は記事や写真などがバランスよく配置されてこそ見やすく、読む人の理解も早い。ビジュアル化も重視している。「ラッピング」といって1枚写真を2ページ見開きで掲載したり、季節の便りをパノラマ写真で紹介したり、読者にインパクトを与える紙面づくりに努めている。

中島雅隆（なかしま・まさたか）写真映像部長。1987年入社。写真部次長を経て、2015年4月から現職。宮崎市出身。57歳。

正確さ、客観性を証明

写真は記事の正確さと客観性の証明でもある。政治家や有識者らの顔写真もそうだし、桜の開花宣言や梅雨入りや梅雨明けなどの写真もそう。これらは記事にうそはなく、写真の通りであることを示す意味もある。運転免許証やパスポート、身分証明書などに本人の顔写真があるのも、写真の正確さが法律的に認められているからだ。

2016年4月の熊本地震の際は、女子プロゴルフ取材のため写真映像部員が熊本市内に滞在していた。すぐに無事を確認し、「取材しながら避難する」よう指示。大変だったと思うが、目の前で何かが起こっていれば撮影するのがカメラマンだ。

スポーツ面で同一競技を数枚掲載する際は、さまざまなシーンを見逃さないよう撮影している。同じような写真が並ぶと平凡な紙面になり、読まれない。次にどういうシーンがあるのか想像しながら、いつでも撮影できる状況を保てるように心掛けている。

スマートフォンで気軽に写真撮影ができる時代となったが、端末の中に撮りためているだけになっていないだろうか。撮った写真は自分が生きた記録。子や孫の代まで残るように保存してほしい。

学生の感想

【３年、仲西沙穂さん】情報が集約されている写真の選別は重要である。写真の美しさはもちろん、記事に載っている写真は、読者に分かりやすいもの、という意図で選ばれ情報を凝縮した１枚であるという見方に変わった。

【１年、日置勇羽さん】写真には記者のこだわりがたくさん詰まっている。どの写真を使うかで記事の信ぴょう性や価値まで違ってくる。写真は新聞には欠かせないものだ。

【１年、橋本実咲さん】新聞写真は、いろんな人の努力の上で成り立っている。取材を担当したカメラマンの技量や考えなどが大きく関わっていることを知った。

【１年、大八木彩登さん】写真が１枚あるだけで、記事の内容を理解しやすくなる。これからは、この写真がどのように撮ったのか想像しながら見てみたい。

【１年、黒川悠惟さん】ドローンなどの最新技術を駆使していることが分かった。ありのままを切り抜き、写真を厳選していることも知った。

【１年、藤丸さくらさん】２枚の写真を人目に付くかなど細かな配慮がなされている。取材前から構想を練っていると聞き、さすがカメラマンだと思った。

（３日の講義から）

令和３年（2021年）　12月11日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（10）～宮崎公立大学時事問題講義
衆院選

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽10

衆　院　選

10月31日に衆院選の投開票があった。どの程度関心があっただろうか。

異例の選挙だった。菅義偉前首相は10月21日に衆院の任期満了が迫る中、解散・総選挙に打って出られないまま退任。続く岸田文雄首相は就任した10月４日に「14日衆院解散」「19日公示、31日投開票」を表明した。解散から投開票まで17日間は戦後最短。任期満了を越えての衆院選は現行憲法下で初めてだった。

足立希（あだち・のぞみ）
報道部次長。１９９８年入社。報道部、都城支社、総務部次長などを経て２０２１年４月から現職。宮崎市出身。45歳。

投票は意見示す手段

争点がないとも言われたが、安倍・菅政権をどう評価するかを問われた選挙。県内では、宮崎１区で自民党が９年ぶりに議席を失った。比例で２人が復活し、本県から与野党の５人が当選した。全国的には、自民が単独で過半数を獲得。日本維新の会が躍進し、立憲民主党は苦戦した。

「政治分野の男女共同参画推進法」施行後、初の衆院選だったが、女性候補は前回２０１７年から23人減。比率は17・７％にとどまった。

問題は投票率。県内は53・66％で、前回を上回ったとはいえ過去３番目の低さだった。２週間後の県議補選宮崎市区は18・34％と、県内選挙で戦後最低を記録。投票率の低落傾向は続いている。

政治は難しく、遠く感じるかもしれない。だが特にコロナ禍においては、一斉休校や現金給付、ワクチン接種など、政治によって物事が動く場面をたくさん見たと思う。来年１月には宮崎・延岡市長選、来夏には参院選が控える。少しずつでも関心を高めて、自分の意見を示す手段として投票してほしい。

学生の感想

【１年、松浦果楓】今回の衆院選が初めての選挙で、自分なりに調べて投票した。小さい子どもやお年寄りに対する公約は多いのに、大学生など若い人に対する公約は少ないと感じた。

【１年、飯田紗子】若い世代の選挙・政治への関心を高めるためには、テレビや新聞、ＳＮＳで定期的に広報することが鍵だと考える。

【１年、小倉千奈】全く政治に興味がなかったが、ＳＮＳで若者へ投票を呼び掛ける動画を見たり、選挙関係のアルバイトをしたりして気持ちが変わり、衆院選で投票した。選挙をより身近に感じれば、関心は高まると思う。

【２年、中村麗】政治について難しいというイメージを持っている人が私を含めて多い。講演会のような場で説明してもらえると、理解することができるのではないか。

【１年、永友はるか】政治家には若い人がいないというイメージ。若者の意見を代弁する政治家があまりいないことも、関心の低さの原因だと思う。

【１年、右田友紀】宮崎の選挙事情を知るきっかけとなった。投票によって権力が生まれるということも考え、次回から投票に行きたい。

（10日の講義から）

令和３年（2021 年） 12 月 18 日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（11）～宮崎公立大学時事問題講義
災害報道

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽11

災害報道

全国で大規模な自然災害が相次ぎ、本県も毎年のように水害や土砂災害に見舞われている。本紙では災害報道に力を入れ、何より読者や県民に寄り添うことを重視してきた。正確な情報によって危険を知らせて避難などの行動を促し、被災地の置かれた状況を伝え続けることが、県民が防災や被災地に目を向けることにつながると考える。

押川真基（おしかわ・まさき）報道部次長。2001年入社。写真部、報道部、延岡支社、経済部、写真映像部などを経て19年4月から現職。宮崎市出身。43歳。

刻々と変わる状況を逐次発信できるインターネットなどに比べ、新聞は速報性という点で優位性は低い。このため、台風など予測できる災害の事前報道は、しっかり目を通してもらえるよう大きく紙面を割く。また、各地の防災活動や専門家の提言をまとめた特集など、教訓を共有でき、防災について考えられる材料を日常的に提供することを意識している。

教訓共有へ材料提供

今年9月、宮崎市内海で発生した土砂崩れで国道や鉄道が不通となり、住民生活は大きな不便を強いられた。その状況を何度も報じ、記事を目にした地元企業が被災地に支援の手を差し伸べた。昨年9月、椎葉村の土砂崩れで4人が犠牲となった。「苦しむ日々は一生続く」。発生後1年の記事では、遺族の悲痛な声を伝えた。被災者の声だからこそ、読者は現実感を持って重く受け止める。

当たり前と思っていた平穏な日常が、災害によって突然奪われる。地元メディアとしてさまざまな視点の記事を提供し地域の防災力が高まれば、県民の命を守ることにつながる。そう信じ、読者の心に届く災害報道を目指したい。

学生の感想

【１年、末廣桃菜】被災者の声を聞くことで災害の怖さを知り、地域の防災意識が高まると考える。

【１年、松山凜】記事を載せ情報を発信し続けることが、被災者と支援してくれる人をつなぐ役割を果たせると感じた。

【１年、永友はるか】自分が住む地域がどのような災害に巻き込まれるかを考えることが大切。新聞は地域に密着した情報を詳しく知ることができるという利点を生かした情報を提供してほしい。

【１年、松本晴太】発生から１カ月、１年後の記事は災害の記憶を風化させないという点で良いと感じた。

【１年、川上鈴奈】正確な情報発信は、災害時ではより重要性が高まると思った。

【１年、山田果林】南海トラフ巨大地震の被害想定を見て危機感を覚えた。空振りを恐れずに避難を促すことの大切さを知った。

【１年、田中夢】災害をより身近に感じさせるためには、被災者の思いや状況を報道し続けることが重要ではないか。

【１年、宇都しずか】防災に関する報道に日頃から目を通し、自分たちの命を守っていきたい。

（17日の講義から）

令和３年（2021 年） 12 月 25 日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（12）～宮崎公立大学時事問題講義
コロナ禍の中小企業

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽12

コロナ禍の中小企業

本県経済の根幹である中小企業がコロナで苦境に立つ。人口減少・高齢化も加速しており、地域の活力を維持し、持続的な発展をなすためには

諫山尚人（いさやま・なおと）経済部編集委員。1994年入社。串間支局長、報道部次長、NC整理グループ編集委員などを経て2021年4月から現職。宮崎市出身。50歳。

得意分野で価値創出

個々の事業所が元気に営業を続けていくことが鍵を握る。得意分野を生かし、かつ成功体験にとらわれず、新しい価値を創出してコロナに立ち向かっている事例を紹介する。

川越紙店の飲食時用紙製マウスガードは「飲食店の力になりたい」と軽量で成形しやすい紙の特性を生かし開発。「脱プラスチック」で環境に負荷をかけない感染防止アイテムとして購入者の共感も集める。企業ではないが、県美容業生活衛生同業組合が手掛けるゴムひものないマスクは客に安心感、制作する福祉作業所には収入確保、組合員店舗のサービス向上に寄与。利用が12都府県に広がる「三方良し」のアイデア商品だ。

百姓隊は高齢社会に対応し、少ない量でも必要な栄養素を摂ることができる機能強化野菜に活路を見いだす。ポップミックスの非接触型アンケートシステムは感染リスクを抑え、人口減による人手不足にも左右されない。

コロナ禍の社会はあらゆる行動が制限される不条理に満ちている。不透明な先行きを明るく照らし、人々が一歩を踏み出す支えとなるビジネスが求められている。県内でも多様でオリジナリティーあふれる事業所が日々奮闘している。前途有望な若い人たちに地元企業に目を向けてもらい、ともに本県経済を回す力となってもらうことが地域の持続的な発展に欠かせない。

学生の感想

【２年、吉田瑞姫さん】スピード感ある中小企業だからこそ地域の需要に応えるサービスを提供できる。コロナ禍で成功しているビジネスを展開しているのは大企業が多いというイメージが変わった。

【３年、松崎達英さん】地域に寄り添ったアイデア、創造性を発揮し、新たな強みを見いだしていることが分かった。県内の実例をもっといろいろ知りたくなった。

【１年、永田神楽さん】「誰もやらないことを積極的にやる」「ナンバーワンよりオンリーワン」など、周りに流されない経営者の考え方、姿勢を見習いたい。

【１年、中水流実樹さん】人のためを思い開発された商品は利用する人に新たな価値を与え、つらいコロナ禍を乗り越える力になる。

【１年、坂元琴音さん】コロナで諦めたことが多くあったが、紹介された企業のように柔軟に対応していきたい。状況を嘆くだけではなく、今できる最善のことを考え、行動に移す大切さを学んだ。

【４年、原田健太郎さん】それぞれの強み、新たなアイデアを生かし、ときに発想を転換しながらビジネスを実行していく底力に驚かされた。

（24日の講義から）

令和４年（2022 年）　１月８日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（13）～宮崎公立大学時事問題講義
F35B 配備計画

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽13

F35B配備計画

最新鋭ステルス戦闘機F35Bについて、全国の自衛隊基地で初となる配備先に、新富町・航空自衛隊新田原基地が浮上していることが明らかになった昨年4月以降、大きく紙面展開してきた。それは中国が海洋進出を強める中、配備計画が国防の最前線の動きであること、そして基地周辺の住民、県民の生活に密接に関わってくる問題だからだ。

佐賀信行（さが・のぶゆき）報道部次長。2002年入社。校閲部、報道部、経済部、えびの支局などを経て20年4月から現職。延岡市出身。42歳。

国は地元に配備方針を正式に伝えた後、騒音対策として住宅防音工事の助成対象の拡大案を示すなどした。これを踏まえ、12月27日、基地周辺5市町などでつくる「新田原基地周辺協議会」は配備計画を受け入れる方向で国と議論を進める方針を確認した。

国としてはF35B配備へ道筋が立ったともいえるだろうが、整理すべき課題は多く、地元紙として住民目線に立った報道を継続するつもりだ。

安全保障、身近な問題

昨年5月には、えびの市と鹿児島県湧水町にまたがる陸上自衛隊霧島演習場で日米仏共同訓練が実施された。この3カ国の陸上部隊が国内で実動訓練を行うのは初で、本県を舞台に、多国間連携が新たな展開を見せた形だった。

安全保障は遠いようで実は身近な問題。きょうの講義で伝えたいことは、安全保障をテーマにした衆院選連載記事で紹介した元陸将のコメントに集約されている。「中国が米国と並ぶ存在となり、どう平和を保っていくか重要な時期に来ている。宮崎は陸自・空自の部隊があり、安全保障は遠い世界の話ではない。身近な問題として関心を寄せ、考えを深めていく必要がある」

学生の感想

【１年、伊東陽太さん】抑止力、防衛力の強化として、Ｆ35Ｂなどを備えることにはとても賛成、納得できたが、どのくらいのラインから「防衛のため」という目的を越えてしまうのか、問題が浮かんできそうだなとも思った。

【１年、洲鎌有登さん】Ｆ35Ｂが安全保障の観点から重要な位置付けをされていることが分かった。騒音などの諸問題は大きな課題で、周辺住民の意見が重要だと思う。

【１年、福山莉歌さん】宮崎と安全保障がそんなに深く関わりあっていると思っていなかった。平和でいるために、戦争をしないために何をしなければならないか、人ごとのように考えてはいけないと思った。

【１年、日髙響花さん】以前から関心があったが、中国などとの国際関係を考慮した動きがあることを知ってより関心が高まった。住民の安全、快適な暮らしも保障しなければならないため、難しい問題だと感じた。

【１年、米良莉湖さん】初めてＦ35Ｂ配備計画を知った。安全保障については、本県と関わっているということで身近に感じ、これからどうなっていくか、きょうの授業を機に知っていこうと思う。

（７日の講義から）

令和４年（2022 年）　１月 14 日（金）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（14）～宮崎公立大学時事問題講義
こども新聞の役割

宮日と考える

宮崎の明日

～公立大時事問題講義から

▽▽14

こども新聞の役割

猪八重俊樹（いのはえ・としき）生活文化部編集委員。１９９５年入社。写真部、都農支局長、販売企画委員などを経て２０２１年４月から現職。宮崎市出身。48歳。

２０１２年のこどもの日に誕生した宮日こども新聞は５月に10周年。活字、新聞に親しみ、人の機微や多種多様な出来事に触れることで「生き抜く力」を育んでほしいという創刊当初の思いを大事に、毎週土曜日に発行してきた。

「こども目線」での情報発信を目指しており、ニュースをはじめ、エンタメ情報、作品投稿などで構成している。学習問題もあり、昨夏からは「質の高い教育をみんなに」を目標の一つに掲げるＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）への一助になればと、新聞販売所と連携。希望する県内のこども食堂へ無償で提供中だ。

創刊前から続く児童生徒が取材、記事化する企画「こども宮日編集局」の登録者は４００人に迫る。過去に登場して小学校教諭となった〝卒業生〟が、受け持っている児童にこども新聞の活用を呼び掛ける好循環も生まれた。「国文祭・芸文祭みやざき２０２０」と連動したこども記者プログラム「キッズプレスプロジェクト（ＫＰＰ）」には、３年間で42人の児童生徒が参加。地元文化に光を当てた若い目が紙面を彩った。

「学び」をどう後押し

紙面を飛び出した企画も好評だっただけに、新型コロナウイルスの影響で中断していることも新聞キャラクター「じゃーじゃ」の学校訪問の再開が待ち遠しい。２月には紙齢５００号。この節目の年は、８月にＮＩＥ全国大会宮崎大会を控える。こども向け新聞を含めた新聞がこどもの「学び」をどう後押しできるか―。課せられた役割と責任を追求している。

学生の感想

【４年、王安琪さん】ネット時代、良くない考え方がこどもに影響している。正しい価値観をこども新聞で。

【１年、大石奈都美さん】中学受験時のちょっとした時間に読めて助かった。英単語などＱＲコードを使ったゲーム形式の問題を採用したら面白いと思う。

【１年、児玉慧瞳さん】こども新聞は自分の知りたい情報を探し出す能力を身に付けられる。こども記者は自分の言葉で物事を発信する難しさや楽しさを学べる。

【１年、後藤幸来さん】新聞で情勢や時事的な問題を考えることは勉強面で差が出る。スマホやタブレットで参加できるゲームに期待。

【１年、高見愛さん】こども記者の存在を初めて知った。何でも不思議に思うこどもの質問の角度は大人と違い面白そう。コミュニケーション能力も高まる。

【１年、藤本萌香さん】新聞はこどもの時からの読む習慣が重要。人気投票のような企画をつくれば「投票」を経験できるいい機会になる。

【１年、藤村優羽さん】ファッションの記事が好きだった。こども新聞は新聞を読むハードルを下げるツールになる。　（13日の講義から）

令和４年（2022 年）　１月 22 日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮日と考える宮崎の明日（15）～宮崎公立大学時事問題講義
デジタル時代の報道

宮日と考える
宮崎の明日
～公立大時事問題講義から
▽▽15

デジタル時代の報道

鬼束功一（おにつか・こういち）デジタル企画部長。1996年入社。福岡支社報道部次長、経済部編集委員などを経て2021年4月から現職。宮崎市出身。52歳。

インターネット環境は日々進歩し、本格的なブロードバンドワイヤレスアクセスが一般化したことで、情報はより多く、早く、広く伝えられるようになった。ただ、ネット上の情報は〝玉石混交〟。フェイクニュースのように真偽のはっきりしない情報が拡散し、時には世論を誤った方向へ導き、社会に混乱を招いたケースも見受けられる。

新聞の生命線は、事実の正確な把握とそれに基づく報道。これはデジタル技術を活用した情報発信においても変わることはない。高い信頼性や一覧性といった新聞の強みと、速報性や情報量の多さ、動画・音声とのリンクなどネットの強みを組み合わせることで、より付加価値の高い、読者やネットユーザー目線の情報発信が可能となると考える。

「正確な情報」生命線

互いの強みを生かせる例の一つが、災害・防災に関する報道。被災地や災害が予想される地域に暮らす人々が必要とするのは「ローカルでミクロな情報」であり、新聞社は「デジタル・ストーリーテリング」や「オンデマンド」といった技術を取り入れることで、そのニーズに応えることができる。

不特定多数が情報の発信者にも、受信者にもなりうるデジタル社会において、情報の真偽を判断、分析、評価する力「メディア・リテラシー」を身に付けることが求められる。学生の皆さんには、その力を育成するために、新聞が発信する信頼性の高い情報を役立ててほしい。

＝おわり＝

学生の感想

【１年、伊東陽太さん】一つだけでなく、複数の媒体、サイトなどから情報を見る「クロスチェック」を心掛ける。また、そういった教育を子どもの頃から行うことが大切だと思う。

【１年、重久侑育子さん】デジタル社会において、信頼できる情報源は新聞だと考える。新聞が発信するＳＮＳやウェブページの速報と合わせてニュースを見るようにしたい。

【１年、日髙美佑さん】この講義で新聞の足りない部分（速報性）をネットが補えると知った。正確な取材力を持ったメディアからの情報は必要。この機会に情報デバイスの使い方を見直していきたい。

【１年、藤山寧音さん】正確な情報を得たいのなら新聞、個人の意見を参考にしたいのならネットやＳＮＳという風に、それぞれの長所を捉えて使い分けることも必要だ。

【４年、金丸実幸さん】さまざまなメディアがある中、一つのニュースについて真実かどうかを見極めるのはとても大変。メディア・リテラシーを身に付けるために信頼できるメディアを見つけたい。

（21日の講義から）

Ⅳ　資　　料

宮崎公立大学交流センター・凌雲会館施設利用状況

宮崎公立大学交流センターは、地域住民の生涯学習及び外国人留学生との国際交流の拠点を目指して建設されたものです。

交流センター内には、生涯学習や国際交流のための講演会等が開催できる多目的ホール、会議室、和室、交流ラウンジがあり、蔚山大学校や蘇州大学からの短期留学生の受け入れ行事や日本文化体験の場として使われるほか、一般市民向けの語学講座や学外団体による研修会など、学内外者が利用できる施設として広く活用されています。

一方、凌雲会館は、本学が開学 10 周年を迎えたことを記念し建設され、１階が学生支援センターと学生支援課、2 階が地域研究センターになっており、主として学生や課外活動団体、本学の教職員及びそれらが関わる団体などが使用する施設です。

１　令和 3(2021)年度施設利用状況

施設名 ＼ 利用件数		利用件数	備　　考
交流センター	多目的ホール	102	
	会議室	152	
	和室	116	
凌 雲 会 館	会議室AB	10	
	共同研究室	149	
	IT教育支援室	－	随時学生に開放

２　行事等別の施設利用率

施設名 ＼ 行事等		学内行事 ＊1	講座等 ＊2	教員関連 ＊3	学外行事 ＊4	課外活動・学生使用
交流センター	多目的ホール	44.2%	－	12.7%	28.4%	14.7%
	会議室	19.7%	－	0.7%	59.9%	19.7%
	和室	19.0%	－	－	－	81.0%
凌 雲 会 館	会議室AB	90.0%	－	10.0%	－	－
	共同研究室	37.6%	54.8%	7.6%	－	－
	IT教育支援室	学生に開放				

＊１　学内行事：短期留学生研修、大学訪問等　　＊２　講 座 等：各種講座等
＊３　教員関連：授業等　　＊４　学外行事：他団体研修等
※令和 3(2021)年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、凌雲会館をオンライン授業の受講会場や就職活動(Web 面接)の為のスペースとして学生へ開放した。

令和３(2021)年度　地域貢献部会　開催実績

	開催日時	開催場所	主　な　議　題　等
第１回	令和３年４月 13 日（火） 10:00～11:00	凌雲会館 共同研究室	・令和３年度計画について ・令和３年度自主講座開設許可申請について ・令和３年度後期開放授業について
第２回	令和３年５月 25 日（火） 10:30～12:00	オンライン 会議	・令和３年度（寄附）講座の申入れについて ・令和４年度寄附講座の申入れについて ・令和３年度 定期公開講座について ・地域貢献に係る事業の学外ホームページの本学サーバへの移行について ・各種講座（定期公開講座・自主講座等）の学内（教職員）向け案内について
第３回	令和３年６月 22 日（火）	メール 会議	・令和３年度 定期公開講座について【継続】
第４回	令和３年７月 27 日（火） 10:30～11:45	オンライン 会議	・令和３年度語学講座（後期）について
第５回	令和３年９月 28 日（火） 10:30～12:00	オンライン 会議	・令和３年度計画に係る進捗状況の入力（案）作成について
第６回	令和３年 10 月 26 日（火） 10:30～12:00	オンライン 会議	・リカレント教育プログラム講習「ホテル接客 英語講座」受講アンケートの項目について

	開催日時	開催場所	主　な　議　題　等
第７回	令和３年 11 月 30 日（火） 10:30～12:00	オンライン 会議	・【継続】リカレント教育プログラム講習「ホテル接客英語講座」受講アンケートの項目について ・令和４年度定期公開講座について ・令和４年度開放授業について ・令和３年度自主講座開設許可申請（追加募集分）について ・令和３年度定年退職教員による公開講座（講義）について
第８回	令和３年 12 月 21 日（火） 10:30～11:00	オンライン 会議	・令和３年度自主講座開設許可申請（追加募集分）について
第９回	令和４年１月 25 日(火) 10:30～12:00	オンライン 会議	・令和３年度自主講座開設許可申請（講座内容変更分）について ・令和４年度自主講座について ・令和３年度計画業務実績（案）および令和４年度計画（案）の入力について
第 10 回	令和４年２月 22 日(火) 10:30～11:25	オンライン 会議	・令和４年度寄附講座（街市）について ・令和４年度語学講座について
第 11 回	令和４年３月 22 日(火) 10:30～11:00	オンライン 会議	・報告事項：令和４年年度寄付講座（こゆ財団）について等

Ⅴ　付　　録

新　聞　掲　載　記　事　一　覧

	掲　載　日	掲　載　紙	見　　出　　し
1	令和 3 年 5 月 15 日	宮崎日日新聞	「街市」から活性化考えて
2	令和 3 年 9 月 23 日	宮崎日日新聞	交通安全オンライン啓発 高齢者向け　公立大生に委託
3	令和 3 年 12 月 7 日	宮崎日日新聞	危険個所歩いて確認　西池小 5 年生
4	令和 4 年 1 月 22 日	宮崎日日新聞	宮崎公立大　辻利則教授に聞く 早めの自主避難重要

令和３年（2021年）　５月15日（土）
宮崎日日新聞社提供

「街市」から活性化考えて

実行委、公立大生へ講座

宮崎市中心市街地のにぎわい創出を図る「街市」の実行委員会（大古殿宗大委員長）は11日、同市の宮崎公立大で特別講座を開いた。学生のまちづくりへの関心を高め、人材育成にもつなげようと企画。1～3年生約30人が11月まで全9回の講座を通じ、活性化について考える。

第1回は同大学からリモートで実施し、丸山智生副実行委員長が毎月第4土曜日に開く「街市」について「一番街と若草通りに多くの出店が並ぶ。今年4月で11周年を迎えた」と紹介。宮崎の食で街を元気にするなどの目的も説明しながら、「いろんな店舗や事業者と協力し、活性化を点から線、線から面へ広げたい」と語った。

学生たちは「活性化につながる取り組みを考えたい」「お世話になった宮崎に恩返ししたい」と意欲は十分。1年の永友はるかさん（18）は「まちづくりへの興味がさらに湧いた。多くを学び、コロナで大変な宮崎を少しでも元気にしたい」と話していた。

今後の講座は市街地の現状、まちづくりなどに関する講話を開くほか、学生は実際に「街市」にも参加し、出店やイベント企画にも挑戦する。

（赤塚盟）

街市実行委員会が行った宮崎公立大生への特別講座

令和３年（2021 年）　９月 23 日（木）
宮崎日日新聞社提供

交通安全オンライン啓発

高齢者向け　公立大生に委嘱　県警

新型コロナウイルス禍で交通安全教室が開催しにくい状況が続いていることを受け、県警は22日、高齢者向けのオンライン教室を開いている宮崎市の宮崎公立大のボランティアグループに、交通安全活動の委嘱を行った＝写真。県警と県内学生が連携して活動するのは初。継続的な活動を目指し、高齢者の事故に関するデータの共有なども進める。

委嘱を受けたのは、同大学人文学部の辻利則教授（システム工学）のゼミ生20人でつくる「宮崎公立大学ネットワークボランティア」で、ITを活用した高齢者の健康増進や見守りシステムを研究。県警の依頼を受け、今年６月から同市内の高齢者サロンでリモートによる交通安全教室を開催。これまで４回実施し、延べ約40人が参加した。

県警によると、昨年度の交通安全教室の開催は２４５２回（前年同期比３３６９件減）で、前年の半分以下に減少。県内では高齢者が絡む事故が増加傾向にあるため、県警はオンラインでの開催を模索していた。

県警本部であった委嘱式には学生ら４人が参加。県警交通部の最上川周一参事官兼交通企画課長が「十分な活動ができない中で学生たちの活動を知った。今後も活動を広めてほしい」、４年の松元拓海さん（22）は「高齢者の事故が減ることを願って頑張りたい」と話していた。

（川越裕天）

令和３年（2021年）　12月７日(火)
宮崎日日新聞社提供

危険箇所歩いて確認

西池小5年生

■地域防災■

宮崎市・西池小（山口昇校長、907人）の5年生は11月30日、地域の危険箇所や災害時の避難施設を調べる「ストリートウォッチング」を行った＝写真。児童たちはタブレット端末で写真を撮影したりメモを取ったりしながら、宮崎公立大ネットワーク研究室（辻利則教授）が開発したウェブアプリを活用して防災マップを作成した。

2クラス約80人が参加し、同研究室の学生と中央西まちづくり推進委員会（徳光秀夫委員長）のメンバー約30人が引率。8班に分かれて県総合文化公園を出発し、同大学や北消防署周辺などを約1時間半歩いて調査した。

児童たちは端末を使い、歩道の舗装が割れている箇所や指定避難所などを撮影。「つまずかないように注意」「災害時に集合する場所」といった音声メモを添えて、アプリの地図上に次々に記録していった。

田邊圭都君(11)は「いろいろな場所に避難施設があり勉強になった。家族にも教えてあげたい」と話していた。残りの2クラスも同様の調査を行った。

（野﨑亮）

県央

令和４年（2022年）　１月22日（土）
宮崎日日新聞社提供

宮崎公立大　辻利則教授に聞く

早めの自主避難重要

16日未明に本県沿岸部に発令された津波注意報に関し、自治体の避難指示発令の判断や避難の在り方について宮崎公立大の辻利則教授（災害情報）に聞いた。

（岩切康一朗）

×　×

自治体は災害の恐れがある場合、躊躇（ちゅうちょ）なく避難情報を出すことが求められる。ただ、今回は海外の海底火山噴火による津波という経験したことのないケース。このため、正確な予測が難しく、自治体の判断が分かれたのではないか。ただ、発令の有無とは関係なく、津波注意報発表を防災行政無線で周知するなど、「気付かせる努力」は必要だ。

車で高台に自主避難する人も相次いだが、避難は徒歩が基本。車の渋滞が発生すると、身動きが取れなくなり津波に襲われる可能性があるためだ。南海トラフ巨大地震発生が懸念される中で、こうした注意点を認識してほしい。

気象庁や行政も判断を間違うことがある。だからこそ、行政任せにせず自分の地域の災害リスクを事前に把握し、早めの自主避難が重要。自分の命は自分で守る意識を徹底したい。

地 域 研 究 セ ン タ ー 年 報
令 和 3(2021) 年 度 第 14 号

発 行 日　：　令和 4 年 10 月
編 集 者　：　宮崎公立大学　地域研究センター
住　　所　：　〒880-8520 宮崎市船塚 1 丁目 58 番地
電　　話　：　0985-20-4772
F A X　：　0985-20-4773
U R L　：　https://www.miyazaki-mu.ac.jp
E-Mail　：　mmurrc@miyazaki-mu.ac.jp

地域研究センター年報

令和３(２０２１)年度　第14号

宮崎公立大学